

FD活動報告書

2019年度

第一薬科大学

FD委員会

Published by Daiichi University of Pharmacy
22-1 Tamagawa-cho, Minami-ku, Fukuoka 815-8511, Japan

目 次

学生授業評価アンケート報告	1
1. アンケート調査実施要領	3
2. アンケート集計結果	9
3. 学生コメント総括	20
教員相互授業参観報告	23
令和元年度 「教員相互授業参観」 実施要領	25
令和元年度 「教員相互授業参観」 感想	26
教員による授業の自己評価報告	45
FD 講習会報告	55
第1回 学内FD・SD合同研修会 実施報告	57
第2回 学内FD研修会 実施報告	60
第3回 学内FD・学生委員会合同研修会 実施報告	70
学外FD研修会報告	79

学生授業評価アンケート報告

令和元年度

1. アンケート調査実施要領

【目的】 このアンケートは授業及び実習に関し学生の率直な意見を収集し、その結果を授業及び実習の質向上を図るために実施するものである。

【実施要領】

- (1) 調査対象者：1～6年次学生全員。
- (2) 調査対象授業：実務実習および演習科目を除くすべての授業科目及び実習について、学期毎に実施した。
- (3) 実施方法：
 - ①マークシート用紙を用いて行う。
 - ②無記名とする。
 - ③集計作業にはFD委員があたる。
 - ④授業及び実習に対する学生の意見・要望は自由記述とした。
- (4) 実施時期：講義または実習の後半とし、科目担当教員が行った。
- (5) アンケートの解析：解析ソフト「丸ごと授業評価 for Windows」を用いた。
- (6) アンケートの調査項目：講義については、教員評価に関する質問（8項目）、学生自己評価に関する質問（4項目）及び自由記載欄を設けた。実習に関しては、教員評価に関する質問（9項目）、学生自己評価に関する質問（5項目）及び自由記載欄を設けた。
- (7) アンケート解析結果の表記：学年ごとに前期、後期に分けて、全科目の平均評定値を、グラフと表にして示した。
- (8) 調査結果の取り扱い
 - ①各教員へ結果資料を配布する。
 - ②授業及び実習に対するコメントは、当該教員が確認し、FD委員が総括する。
 - ③各教員は調査結果を授業及び実習に反映させる。
 - ④学生へは、「令和元年度FD活動報告書」として図書館、国試情報センター及び第一薬科大学ホームページにて公開する。

(資料 1) 授業アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

<教員評価>

- ①授業中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③授業内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④授業内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤学生の理解度に応じた対策がされていた。
- ⑥説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧授業に集中できる (私語をしない) 環境作りに努めていた。

<学生自己評価>

- ⑨事前にシラバスを読んでこの授業に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑩予習をしてこの授業に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑪この授業の復習をした。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑫この授業の内容を理解できた。

(資料 2) 実習アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

< 教員評価 >

- ① 実習中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
- ② シラバスとの整合性がとれていた。
- ③ 実習内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④ 実習内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤ 技能 (手技・態度) を習得させる工夫がされていた。
- ⑥ 説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦ 黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧ 実習に集中できる (私語、居眠りなどをしない) 環境作りに努めていた。
- ⑨ 実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されていた。

< 学生自己評価 >

- ⑩ 事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑪ 予習をしてこの実習に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑫ この実習の復習をした。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑬ この実習の内容を理解できた。
- ⑭ この実習で学べる技能 (手技・態度) を習得できた。

(資料 3) 実際に使用されたマークシート

回答用紙

1. 記入は、必ずHBの鉛筆で、○の中を正確に塗りつぶして下さい。
 2. 書き損じた場合には、プラスチック製消しゴムできれいに消して下さい。
 3. 用紙を、折り曲げたり汚さないで下さい。

Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ
Ⓔ	Ⓕ	Ⓖ	Ⓗ

良い例	悪い例
●	✗ ○

問 1	①	②	③	④	⑤
問 2	①	②	③	④	⑤
問 3	①	②	③	④	⑤
問 4	①	②	③	④	⑤
問 5	①	②	③	④	⑤
問 6	①	②	③	④	⑤
問 7	①	②	③	④	⑤
問 8	①	②	③	④	⑤
問 9	①	②	③	④	⑤
問10	①	②	③	④	⑤
問11	①	②	③	④	⑤
問12	①	②	③	④	⑤
問13	①	②	③	④	⑤
問14	①	②	③	④	⑤
問15	①	②	③	④	⑤
問16	①	②	③	④	⑤
問17	①	②	③	④	⑤
問18	①	②	③	④	⑤
問19	①	②	③	④	⑤
問20	①	②	③	④	⑤
問21	①	②	③	④	⑤
問22	①	②	③	④	⑤
問23	①	②	③	④	⑤
問24	①	②	③	④	⑤
問25	①	②	③	④	⑤
問26	①	②	③	④	⑤
問27	①	②	③	④	⑤
問28	①	②	③	④	⑤
問29	①	②	③	④	⑤
問30	①	②	③	④	⑤
問31	①	②	③	④	⑤
問32	①	②	③	④	⑤
問33	①	②	③	④	⑤
問34	①	②	③	④	⑤
問35	①	②	③	④	⑤
問36	①	②	③	④	⑤
問37	①	②	③	④	⑤
問38	①	②	③	④	⑤
問39	①	②	③	④	⑤
問40	①	②	③	④	⑤
問41	①	②	③	④	⑤
問42	①	②	③	④	⑤
問43	①	②	③	④	⑤
問44	①	②	③	④	⑤
問45	①	②	③	④	⑤
問46	①	②	③	④	⑤
問47	①	②	③	④	⑤
問48	①	②	③	④	⑤
問49	①	②	③	④	⑤
問50	①	②	③	④	⑤

A 4 シート458

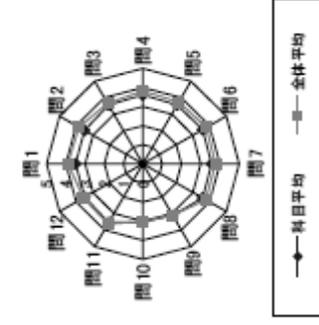
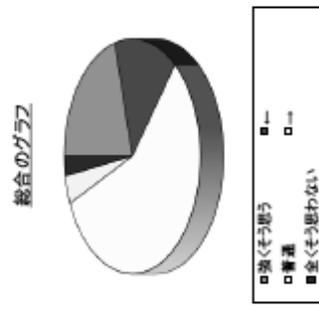
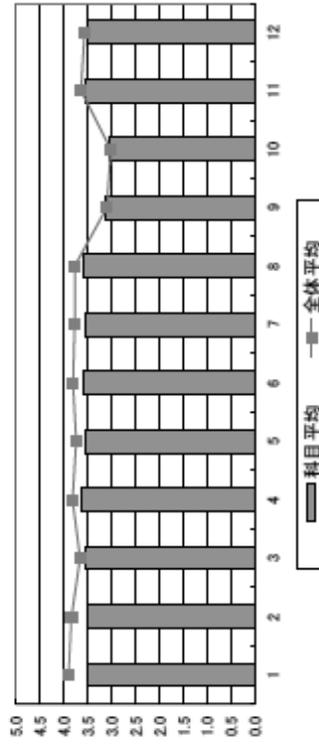
(資料4) 授業・実習アンケート集計結果表 (例)

授業アンケート

集計結果表(グラフ付き)

履修者数:
対象者数:

教員氏名	回答率(%)					無効	有効	平均
	5 強く思う	4 --	3 普通	2 --	1 全く思う わない			
1	22.0	16.5	53.5	5.5	2.4	1	127	3.50
2	21.3	16.5	55.1	4.7	2.4	1	127	3.50
3	22.0	15.7	58.3	3.9	0.0	1	127	3.56
4	25.2	15.7	55.9	2.4	0.8	1	127	3.62
5	22.8	12.6	63.0	0.8	0.8	1	127	3.56
6	23.6	17.3	55.1	2.4	1.6	1	127	3.59
7	22.8	15.0	58.3	3.9	0.0	1	127	3.57
8	23.6	14.2	59.8	1.6	0.8	1	127	3.58
9	16.7	8.7	56.3	6.3	11.9	2	126	3.12
10	11.9	10.3	58.7	7.9	11.1	2	126	3.04
11	21.6	17.6	56.0	4.0	0.8	3	125	3.55
12	16.7	19.0	61.1	3.2	0.0	2	126	3.49



(資料5) 令和元年度アンケート調査マークシート回収状況

令和元年度前期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,193	1,853	84.5%
2年	2,229	1,728	77.5%
3年	1,635	1,292	79.0%
4年	1,020	728	71.4%
5年	—	—	—
6年	951	364	38.3%
総計	8,028	5,965	74.3%

令和元年度後期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,427	1,728	71.2%
2年	2,077	1,420	68.4%
3年	1,921	1,404	73.1%
4年	—	—	—
5年	—	—	—
6年	—	—	—
総計	6,425	4,552	70.8%

2. アンケート集計結果

次ページから令和元年度 授業および実習評価結果のまとめを掲載する。

2019年度 1年生 前期 授業評価(教員評価)①

科目名	基礎化学I		基礎物理学		薬用資源学		有機化学I		フランス語I		英会話I			情報処理演習I		心理学		中国語I		哲学I	
	全	限	全	限	全	限	全	限	全	限	a	b	全	全	3限	4限	全	全	3限	4限	
クラス	3.93	4.16	3.6	3.77	4.25	4.18	4.21	4.03	4.6	4.4	3.6	3.76	3.64	3.63	3.59	3.75	3.63	3.63	3.57	3.63	3.6
①SBOs	3.85	3.97	3.77	4.06	4.18	4.02	3.84	3.84	4.8	4.8	3.64	3.8	3.68	3.73	3.57	3.63	3.73	3.73	3.57	3.63	3.6
②シラバスとの整合性	3.74	4.06	3.23	3.44	4.02	4.09	3.84	4.06	4.6	4.6	3.87	3.86	3.43	4.37	3.59	3.6	4.37	4.37	3.59	3.6	3.6
③興味がわく工夫	3.92	4.31	3.44	3.35	3.82	4.09	4.06	4.06	4.6	4.6	3.98	3.71	3.62	4.33	3.59	3.81	4.33	4.33	3.59	3.81	3.81
④理解させる工夫	3.77	4.18	3.35	3.53	3.82	4.08	4.05	3.92	4.8	4.8	3.86	3.76	3.5	4.43	3.31	3.54	4.43	4.43	3.31	3.54	3.54
⑤理解度に応じた対策	3.86	4.34	3.53	3.87	4.08	4.08	3.92	3.82	4.8	4.8	3.91	3.82	3.29	4.3	3.82	4.02	4.3	4.3	3.82	4.02	4.02
⑥聞きとりやすさ	3.58	4.26	3.87	3.82	3.63	3.9	3.91	3.91	5	5	4.13	4	3.81	4.13	3.75	4.06	4.13	4.13	3.75	4.06	4.06
⑦見やすさ	3.82	4.18	3.82	3.82	3.9	4.00	4.13	4.13	5	5	3.91	3.84	4.04	4.27	3.94	4.21	4.27	4.27	3.94	4.21	4.21
⑧集中できる環境	3.81	4.18	3.58	3.58	4.00	4.00	4.02	4.02	4.73	4.73	3.86	3.82	3.63	4.15	3.65	3.83	4.15	4.15	3.65	3.83	3.83
平均																					



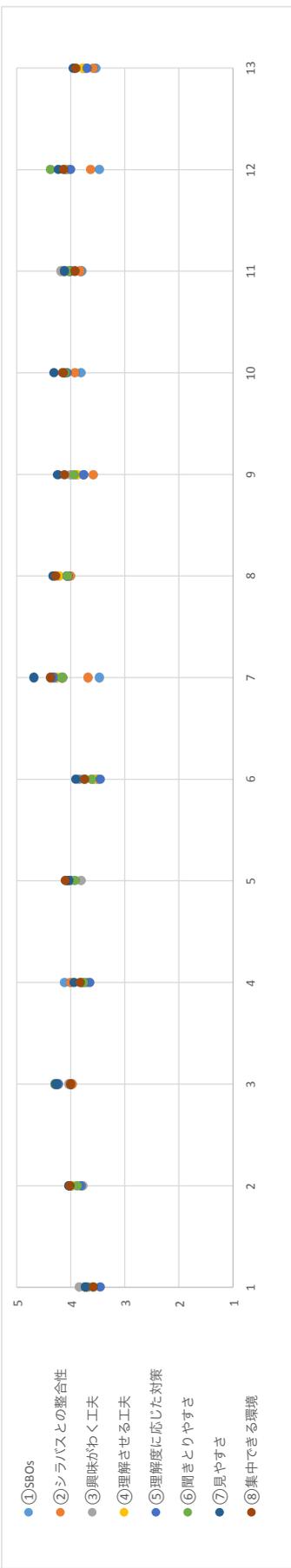
2019年度 1年生 前期 授業評価(学生自己評価)①

科目名	基礎化学I		基礎物理学		薬用資源学		有機化学I		フランス語I		英会話I			情報処理演習I		心理学		中国語I		哲学I	
	全	限	全	限	全	限	全	限	全	限	a	b	全	全	3限	4限	全	全	3限	4限	
クラス	2.88	2.7	2.8	2.68	2.81	2.61	2.98	2.89	3.6	3.8	2.64	3.02	2.58	2.58	2.42	2.75	2.97	2.97	2.42	2.75	2.75
⑨シラバス事前確認	2.72	2.68	2.61	3.54	2.61	3.41	2.89	3.91	3.8	4.2	2.51	2.82	2.03	2.08	2.33	2.15	3.67	3.67	2.33	2.15	2.15
⑩予習	3.96	3.54	3.58	3.24	3.48	3.41	3.91	3.24	4.4	4.2	2.93	3.02	2.32	2.93	2.8	2.44	3.8	3.8	2.8	2.44	2.44
⑪復習	3.81	3.91	3.24	3.06	3.48	3.41	3.79	3.24	4.4	4.4	3.82	3.55	3.46	3.69	3.27	3.13	4.23	4.23	3.27	3.13	3.13
⑫理解度	3.34	3.21	3.06	3.06	3.08	3.08	3.39	3.06	4.00	4.00	2.98	3.10	2.60	2.82	2.71	2.62	3.67	3.67	2.71	2.62	2.62
平均																					



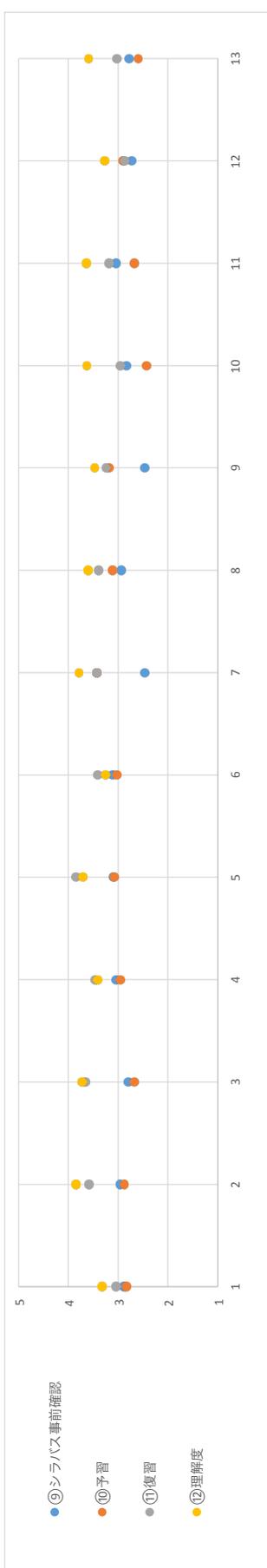
2019年度1年生後期授業評価(教員評価)①

科目名	基礎生物学		基礎化学II		機能形態学I		有機化学II		理論化学		薬学基礎英語II			英会話II			経済学II		生命・医療倫理学	
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	a	b	c	A	B	全	平均	全	平均	
クラス																				
①SBOs	3.68	4.03	3.99	4.12	4.06	3.84	3.47	4.06	3.76	3.81	3.47	4.06	3.76	3.81	3.8	3.47	4.06	3.76	3.81	3.54
②シラバスとの整合性	3.73	4	3.98	4	4.08	3.74	3.68	4	3.59	3.93	3.68	4	3.59	3.93	3.82	3.63	3.59	3.82	3.59	
③興味がわく工夫	3.85	3.78	4.03	3.71	3.81	3.5	4.16	4.33	4	4.14	4.16	4.33	4	4.14	4.18	4.07	3.72	4.07	3.72	
④理解させる工夫	3.59	3.98	4.24	3.79	4.05	3.58	4.26	4.22	3.88	4.12	4.26	4.22	3.88	4.12	4.11	4.1	3.78	4.11	3.78	
⑤理解度に応じた対策	3.45	3.81	4.24	3.64	4	3.46	4.32	4.06	3.76	4.07	4.32	4.06	3.76	4.07	4	4	3.7	4	3.7	
⑥聞きとりやすさ	3.72	3.88	4.3	3.77	3.92	3.62	4.16	4.06	3.94	4.1	4.16	4.06	3.94	4.1	4.04	4.37	3.92	4.04	3.92	
⑦見やすさ	3.73	4.03	4.27	3.94	4.04	3.9	4.68	4.33	4.24	4.31	4.68	4.33	4.24	4.31	4.11	4.23	3.96	4.11	3.96	
⑧集中できる環境	3.59	4.02	4	3.83	4.1	3.74	4.37	4.28	4.12	4.14	4.37	4.28	4.12	4.14	3.93	4.13	3.91	4.14	3.91	
平均	3.67	3.94	4.13	3.85	4.01	3.67	4.14	4.17	3.91	4.08	4.14	4.17	3.91	4.08	4.00	4.00	3.77	4.00	3.77	



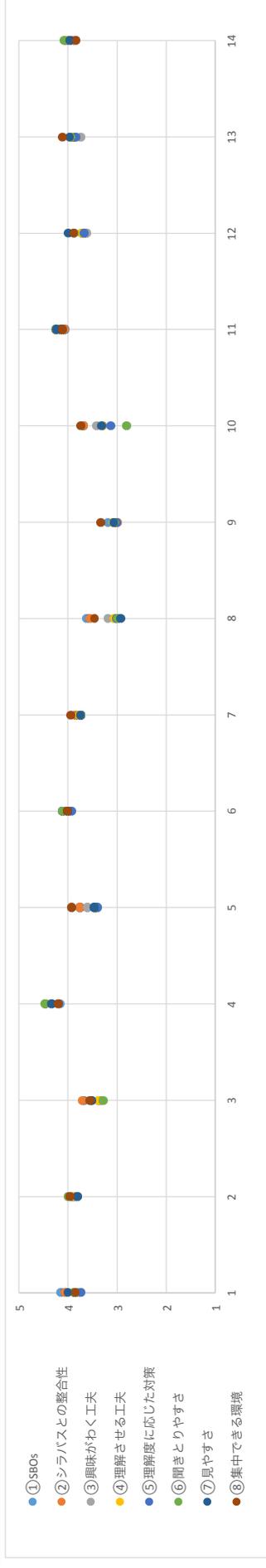
2019年度1年生後期授業評価(学生自己評価)①

科目名	基礎生物学		基礎化学II		機能形態学I		有機化学II		理論化学		薬学基礎英語II			英会話II			経済学II		生命・医療倫理学	
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	a	b	c	A	B	全	平均	全	平均	
クラス																				
⑨シラバス事前確認	2.89	2.96	2.8	3.04	3.09	3.11	2.47	2.94	2.47	2.83	2.47	2.94	2.47	2.83	3.05	2.73	2.78	2.78	2.78	
⑩予習	2.83	2.88	2.68	2.95	3.08	3.02	3.42	3.11	3.18	2.43	3.42	3.11	3.18	2.43	2.68	2.9	2.6	2.6	2.6	
⑪復習	3.05	3.58	3.66	3.46	3.85	3.41	3.42	3.39	3.24	2.95	3.42	3.39	3.24	2.95	3.18	2.87	3.03	3.03	3.03	
⑫理解度	3.33	3.85	3.73	3.41	3.7	3.26	3.79	3.61	3.47	3.63	3.79	3.61	3.47	3.63	3.64	3.27	3.59	3.59	3.59	
平均	3.03	3.32	3.22	3.22	3.43	3.20	3.28	3.26	3.09	2.96	3.28	3.26	3.09	2.96	3.14	2.94	3.00	3.00	3.00	



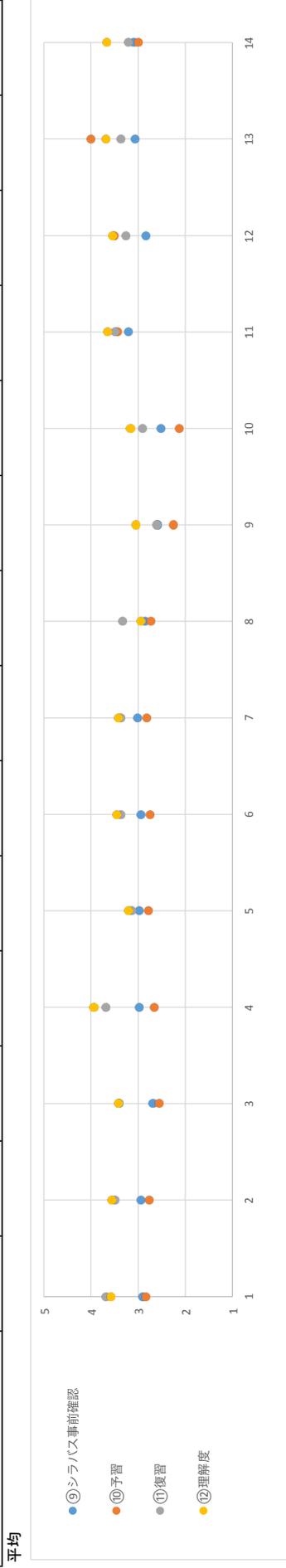
2019年度2年生前期授業評価(教員評価)

科目名	機能形態学II		生命科学I		分析化学I		薬理学I		微生物学I		物理化学I		無機化学I		有機化学I		基礎統計学		薬学英語		臨床心理学		
	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	
クラス																							
①SBOS	4.15		3.88		3.67		4.17		3.76		4.12		3.84		3.62		3.19		3.68		3.64		3.86
②シラバスとの整合性	4.06		3.93		3.7		4.21		3.76		4.09		3.84		3.56		2.99		3.68		3.7		3.88
③興味がわく工夫	3.79		3.9		3.35		4.46		3.6		3.94		3.73		3.19		3.05		3.42		3.63		3.74
④理解させる工夫	3.87		3.89		3.39		4.46		3.44		4		3.78		3.06		3.08		3.29		3.72		3.9
⑤理解度に応じた対策	3.73		3.81		3.53		4.34		3.4		3.93		3.73		3.01		3.01		3.13		3.67		3.84
⑥聞きとりやすさ	3.87		4		3.28		4.47		3.46		4.11		3.74		2.99		3.05		2.81		3.87		3.94
⑦見やすさ	4		3.81		3.51		4.34		3.47		4.02		3.75		2.92		3.07		3.32		3.99		3.97
⑧集中できる環境	3.85		3.96		3.55		4.2		3.92		4.02		3.94		3.46		3.33		3.74		3.89		4.11
平均	3.92		3.90		3.50		4.33		3.60		4.03		3.79		3.23		3.10		3.38		3.76		3.91



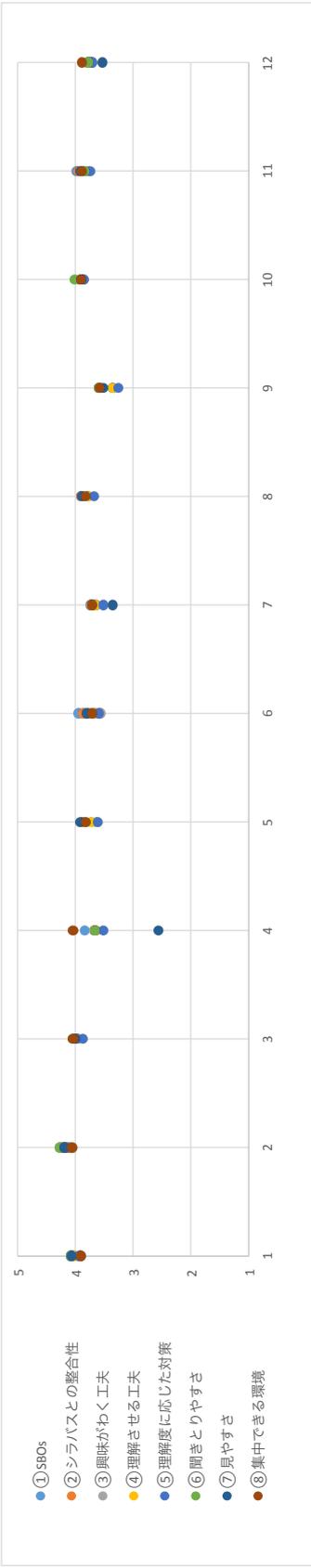
2019年度2年生前期授業評価(学生自己評価)

科目名	機能形態学II		生命科学I		分析化学I		薬理学I		微生物学I		物理化学I		無機化学I		有機化学I		基礎統計学		薬学英語		臨床心理学		
	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	全	漢	
クラス																							
⑨シラバス事前確認	2.91		2.94		2.68		2.97		2.97		2.94		3.01		2.85		2.59		2.52		2.84		3.09
⑩予習	2.84		2.76		2.55		2.66		2.78		2.75		2.82		2.73		2.25		2.13		3.5		4
⑪復習	3.69		3.49		3.4		3.68		3.13		3.36		3.36		3.33		2.6		2.9		3.26		3.37
⑫理解度	3.58		3.55		3.41		3.94		3.21		3.45		3.42		2.95		3.04		3.16		3.54		3.66
平均																							



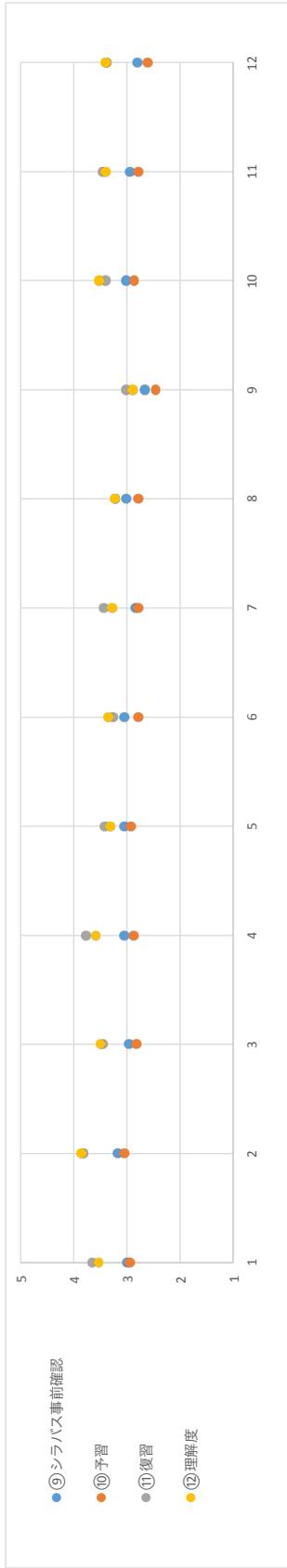
2019年度2年生 後期 授業評価(教員評価)

科目名	分析化学II		薬理学II		生命科学II		微生物学II		放射化学		医療統計学		有機化学IV		物理化学II		病態薬物治療学I		生薬学		環境衛生学I		漢方薬効免疫学		
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①SBOs	4.07	4.11	3.96	3.84	3.89	3.89	3.94	3.74	3.9	3.58	3.87	3.99	3.74	3.87	3.99	3.74	3.87	3.99	3.74	3.87	3.99	3.74	3.87	3.99	3.74
②シラバスとの整合性	4.06	4.16	3.97	3.65	3.89	3.86	3.72	3.9	3.6	3.85	3.95	3.77	3.85	3.95	3.77	3.85	3.95	3.77	3.85	3.95	3.77	3.85	3.95	3.77	
③興味がわく工夫	3.91	4.19	3.97	3.67	3.63	3.56	3.64	3.79	3.36	3.91	3.78	3.7	3.64	3.79	3.36	3.91	3.78	3.7	3.64	3.79	3.36	3.91	3.78	3.7	
④理解させる工夫	4.02	4.24	4.02	3.66	3.73	3.66	3.66	3.77	3.35	3.91	3.87	3.78	3.66	3.77	3.35	3.91	3.87	3.78	3.66	3.77	3.35	3.91	3.87	3.78	
⑤理解度に応じた対策	3.93	4.17	3.87	3.52	3.61	3.59	3.51	3.67	3.25	3.85	3.74	3.67	3.25	3.85	3.74	3.67	3.25	3.85	3.74	3.67	3.25	3.85	3.74	3.67	
⑥聞きとりやすさ	4.08	4.27	4.04	3.66	3.82	3.77	3.7	3.87	3.6	4.01	3.84	3.7	3.87	4.01	3.84	3.7	3.87	4.01	3.84	3.7	3.87	4.01	3.84	3.7	
⑦見やすさ	4.06	4.19	4	2.56	3.92	3.81	3.35	3.89	3.51	3.9	3.91	3.35	3.89	3.51	3.9	3.91	3.35	3.89	3.51	3.9	3.91	3.35	3.89	3.51	
⑧集中できる環境	3.9	4.05	4.04	4.04	3.82	3.71	3.71	3.82	3.58	3.9	3.88	3.58	3.82	3.58	3.9	3.88	3.58	3.82	3.58	3.9	3.88	3.58	3.82	3.58	
平均	4.00	4.17	3.98	3.58	3.79	3.74	3.63	3.83	3.48	3.90	3.87	3.74	3.83	3.48	3.90	3.87	3.74	3.83	3.48	3.90	3.87	3.74	3.83	3.48	



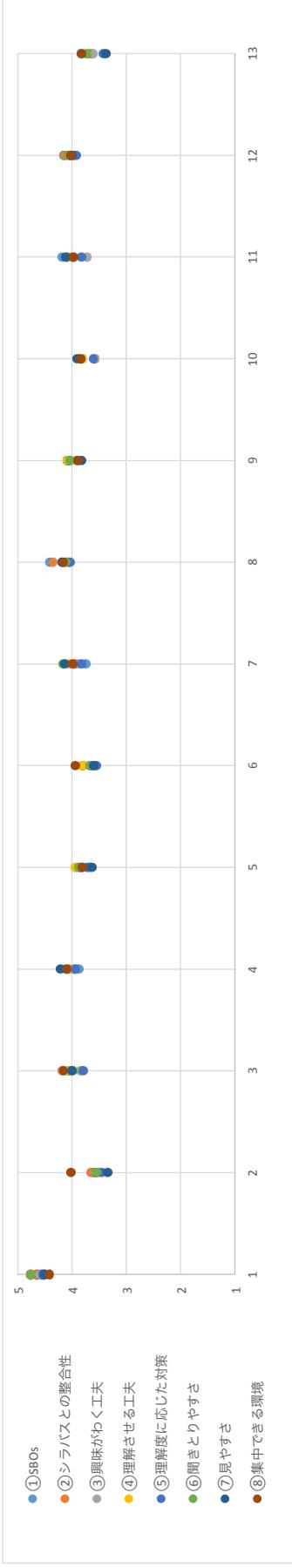
2019年度2年生 後期 授業評価(学生自己評価)

科目名	分析化学II		薬理学II		生命科学II		微生物学II		放射化学		医療統計学		有機化学IV		物理化学II		病態薬物治療学I		生薬学		環境衛生学I		漢方薬効免疫学	
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
⑨シラバス事前確認	2.99	3.16	2.96	3.04	3.05	3.04	2.83	3.01	2.67	3.01	2.94	2.83	3.01	2.67	3.01	2.94	2.83	3.01	2.67	3.01	2.94	2.83	3.01	
⑩予習	2.94	3.04	2.82	2.87	2.92	2.78	2.78	2.79	2.46	2.79	2.78	2.46	2.79	2.46	2.79	2.78	2.46	2.79	2.46	2.79	2.78	2.46	2.79	
⑪復習	3.65	3.81	3.45	3.77	3.41	3.25	3.43	3.21	3.01	3.4	3.46	3.01	3.4	3.01	3.4	3.46	3.01	3.4	3.01	3.4	3.46	3.01	3.4	
⑫理解度	3.53	3.85	3.49	3.58	3.31	3.35	3.27	3.23	2.89	3.52	3.4	2.89	3.52	2.89	3.52	3.4	2.89	3.52	2.89	3.52	3.4	2.89	3.52	
平均	3.28	3.47	3.18	3.32	3.17	3.11	3.08	3.06	2.76	3.20	3.15	2.76	3.20	2.76	3.20	3.15	2.76	3.20	2.76	3.20	3.15	2.76	3.20	



2019年度3年生前期授業評価(教員評価)

科目名	漢方製剤・薬剤学		食品衛生学I		生命科学III		病態薬物治療学I		分析化学III		免疫学		薬理学III		環境衛生学		製剤学I		病態薬物治療学III		物理化学III		物理薬理学		有機化学IV	
	漢	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
①SBOs	4.65	3.59	4.07	3.88	3.69	3.66	3.75	4.42	4.08	3.58	4.18	4.16	3.83	4.08	3.82	4.08	3.72	4.08	3.59	3.8	4.01	4.04	3.93	4.07	3.73	3.83
②シラバスとの整合性	4.65	3.64	4.18	4.07	3.85	3.8	3.96	4.35	4.05	3.82	4.08	4.14	3.64	4.08	3.82	4.08	3.72	4.08	3.59	3.8	4.01	4.04	3.93	4.07	3.73	3.83
③興味がわく工夫	4.58	3.57	3.84	3.96	3.83	3.61	3.9	4.06	4.08	3.59	3.72	4.08	3.61	4.08	3.82	4.01	4.04	3.99	3.75	3.84	3.98	4.07	4.01	3.83	3.64	3.64
④理解させる工夫	4.77	3.54	4.08	3.98	3.94	3.81	4.05	4.18	4.08	3.8	4.01	4.04	3.9	4.08	3.82	4.01	4.04	3.99	3.75	3.84	3.98	4.07	4.01	3.83	3.64	3.61
⑤理解度に応じた対策	4.54	3.45	3.79	3.94	3.72	3.55	3.83	4.04	4.04	3.61	3.82	4.07	3.61	4.04	3.98	4.01	4.04	3.99	3.75	3.84	3.98	4.07	4.01	3.83	3.64	3.61
⑥聞きとりやすさ	4.77	3.56	3.99	4.12	3.88	3.67	4.17	4.12	4.04	3.67	3.82	4.07	3.67	4.12	3.98	4.01	4.04	3.99	3.75	3.84	3.98	4.07	4.01	3.83	3.64	3.61
⑦見やすさ	4.5	3.34	4.01	4.22	3.63	3.6	4.13	4.18	4.18	3.82	4.01	4.04	3.9	4.18	4.12	4.01	4.04	3.99	3.75	3.84	3.98	4.07	4.01	3.83	3.64	3.61
⑧集中できる環境	4.42	4.03	4.16	4.09	3.81	3.94	3.99	4.16	4.16	3.89	3.97	4.02	3.89	4.16	3.97	4.02	4.04	3.99	3.75	3.84	3.97	4.02	4.04	3.83	3.64	3.61
平均	4.61	3.59	4.02	4.03	3.79	3.71	3.97	4.19	4.19	3.99	3.99	4.04	3.99	4.19	3.99	4.04	4.19	3.99	3.75	3.84	3.99	4.04	4.04	3.83	3.64	3.61



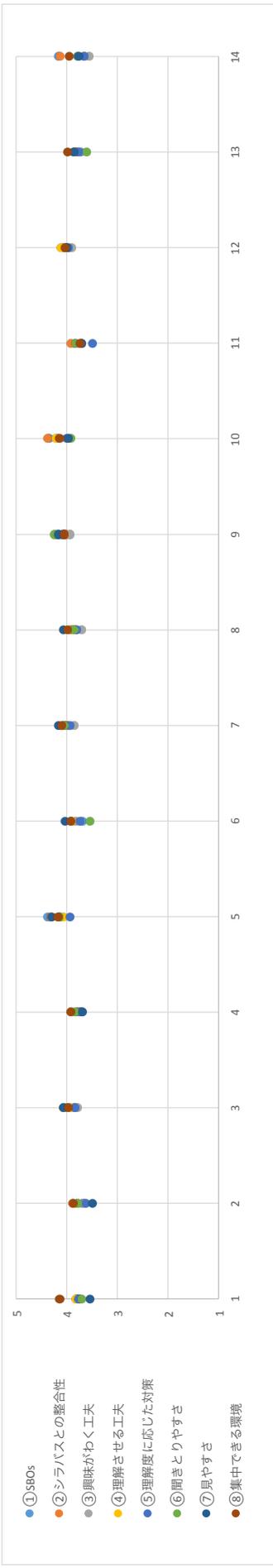
2019年度3年生前期授業評価(学生自己評価)

科目名	漢方製剤・薬剤学		食品衛生学I		生命科学III		病態薬物治療学I		分析化学III		免疫学		薬理学III		環境衛生学		製剤学I		病態薬物治療学III		物理化学III		物理薬理学		有機化学IV	
	漢	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
⑨シラバス事前確認	3.35	3.42	3.09	3.12	2.97	3.02	3.18	3.24	3.25	3.07	3.05	3.37	3.05	3.05	3.37	3.06	3.06	3.22	3.44	3.13	3.14	3.52	3.38	3.21	3.21	
⑩予習	2.48	2.87	3.2	2.75	2.58	2.68	2.81	2.95	3.06	2.62	2.65	3.06	2.65	2.65	3.06	3.42	3.42	3.42	3.44	3.13	3.14	3.52	3.38	3.21	3.21	
⑪復習	3.15	3.5	3.58	3.4	3.4	3.38	3.6	3.71	3.42	3.37	3.65	3.42	3.65	3.65	3.42	3.42	3.42	3.42	3.44	3.13	3.14	3.52	3.38	3.21	3.21	
⑫理解度	4.04	3.3	3.46	3.38	3.35	3.44	3.59	3.65	3.42	3.44	3.65	3.42	3.65	3.65	3.42	3.42	3.42	3.42	3.44	3.13	3.14	3.52	3.38	3.21	3.21	
平均	3.26	3.27	3.33	3.16	3.08	3.13	3.30	3.39	3.29	3.13	3.39	3.29	3.39	3.39	3.29	3.39	3.29	3.29	3.13	3.13	3.14	3.52	3.38	3.21	3.21	



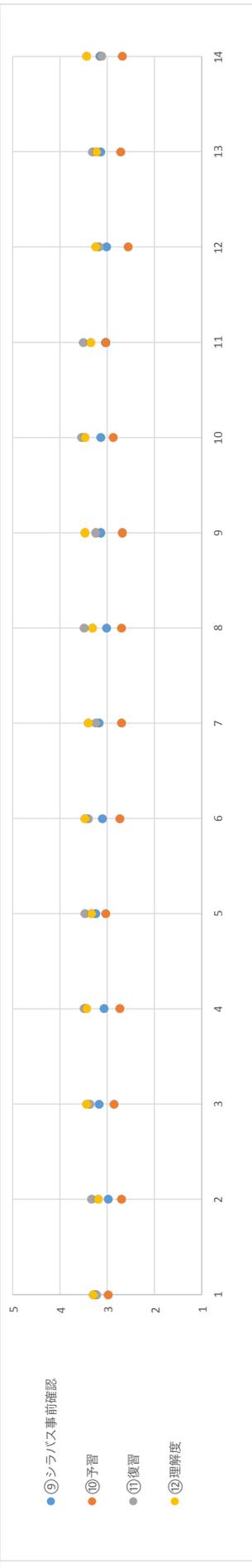
2019年度3年生後期授業評価(教員評価)

科目名	食品衛生学II		分析化学IV		薬理学IV		有機化学VI		生命科学VI		生命科学V		病態薬物治療学IV		医薬品化学I		薬物動態学I		調剤学		天然物化学		構造解析学演習		製剤学II		感染症治療学		公衆衛生学		
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	
クラス	3.78	3.78	3.69	3.69	3.85	3.85	3.71	3.71	4.37	4.37	3.69	3.69	4	4	3.84	3.84	4.05	4.05	4.35	4.35	3.83	3.83	4	4	3.72	3.72	4.16	4.16	4.13	4.13	
①SBOs	3.8	3.8	3.88	3.88	4	4	3.92	3.92	4.31	4.31	3.92	3.92	4	4	3.91	3.91	4.02	4.02	4.37	4.37	3.91	3.91	4.07	4.07	3.81	3.81	4.13	4.13	4.13	4.13	
②シラバスとの整合性	3.75	3.75	3.65	3.65	3.79	3.79	3.77	3.77	4.14	4.14	3.82	3.82	3.85	3.85	3.7	3.7	3.94	3.94	4.18	4.18	3.7	3.7	3.9	3.9	3.84	3.84	3.55	3.55	3.65	3.65	
③興味がわく工夫	3.82	3.82	3.78	3.78	3.93	3.93	3.91	3.91	4.07	4.07	3.89	3.89	4.07	4.07	3.88	3.88	4.16	4.16	4.22	4.22	3.72	3.72	4.12	4.12	3.85	3.85	3.65	3.65	3.65	3.65	
④理解させる工夫	3.76	3.76	3.63	3.63	3.84	3.84	3.73	3.73	3.93	3.93	3.74	3.74	3.94	3.94	3.81	3.81	4.08	4.08	4	4	3.49	3.49	3.96	3.96	3.77	3.77	3.65	3.65	3.65	3.65	
⑤理解度に応じた対策	3.71	3.71	3.79	3.79	4.07	4.07	3.83	3.83	4.15	4.15	3.54	3.54	4.05	4.05	3.86	3.86	4.24	4.24	3.92	3.92	3.82	3.82	4.02	4.02	3.6	3.6	3.78	3.78	3.76	3.76	
⑥聞きとりやすさ	3.54	3.54	3.49	3.49	4.06	4.06	3.69	3.69	4.3	4.3	4.04	4.04	4.16	4.16	4.06	4.06	4.16	4.16	3.96	3.96	3.71	3.71	3.99	3.99	3.86	3.86	3.76	3.76	3.95	3.95	
⑦見やすさ	4.14	4.14	3.87	3.87	3.97	3.97	3.91	3.91	4.17	4.17	3.92	3.92	4.09	4.09	3.98	3.98	4.05	4.05	4.14	4.14	3.74	3.74	4.03	4.03	3.98	3.98	3.95	3.95	3.95	3.95	
⑧集中できる環境	3.79	3.79	3.72	3.72	3.94	3.94	3.79	3.79	4.18	4.18	3.82	3.82	4.02	4.02	3.88	3.88	4.09	4.09	4.14	4.14	3.74	3.74	4.01	4.01	3.80	3.80	3.83	3.83	3.83	3.83	
平均																															



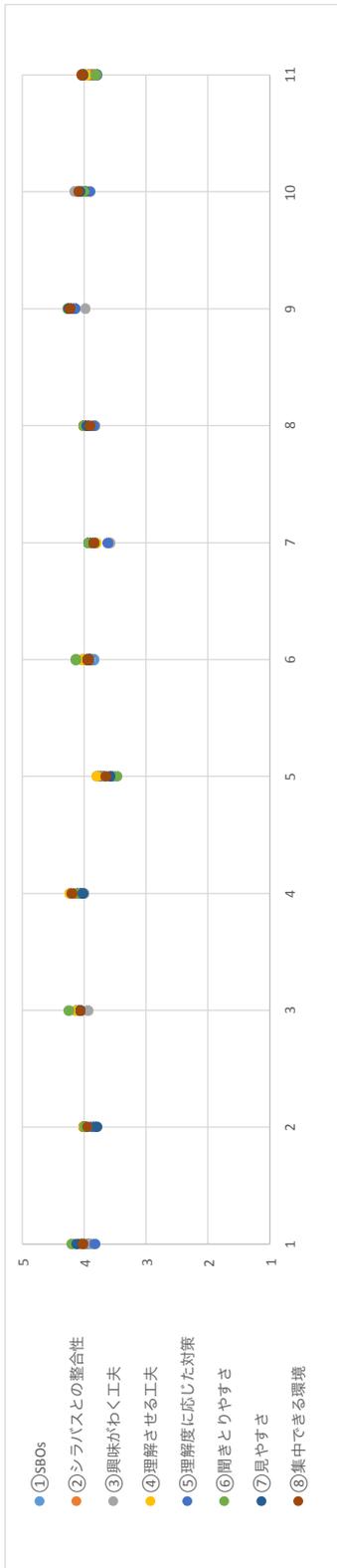
2019年度3年生後期授業評価(学生自己評価)

科目名	食品衛生学II		分析化学IV		薬理学IV		有機化学VI		生命科学VI		生命科学V		病態薬物治療学IV		医薬品化学I		薬物動態学I		調剤学		天然物化学		構造解析学演習		製剤学II		感染症治療学		公衆衛生学		
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	
クラス	3.25	3.25	2.98	2.98	3.17	3.17	3.07	3.07	3.24	3.24	3.11	3.11	3.18	3.18	3.01	3.01	3.13	3.13	3.13	3.13	3.03	3.03	3.01	3.01	3.14	3.14	3.15	3.15	2.68	2.68	
⑨シラバス事前確認	2.98	2.98	2.7	2.7	2.85	2.85	2.73	2.73	3.04	3.04	2.74	2.74	2.7	2.7	2.69	2.69	2.68	2.68	2.87	2.87	3.02	3.02	2.55	2.55	2.72	2.72	3.12	3.12	2.68	2.68	
⑩予習	3.23	3.23	3.33	3.33	3.37	3.37	3.49	3.49	3.46	3.46	3.4	3.4	3.24	3.24	3.49	3.49	3.24	3.24	3.54	3.54	3.5	3.5	3.18	3.18	3.31	3.31	3.12	3.12	3.43	3.43	
⑪復習	3.29	3.29	3.19	3.19	3.43	3.43	3.44	3.44	3.33	3.33	3.46	3.46	3.39	3.39	3.31	3.31	3.46	3.46	3.48	3.48	3.35	3.35	3.24	3.24	3.22	3.22	3.43	3.43	3.43	3.43	
⑫理解度	3.19	3.19	3.05	3.05	3.21	3.21	3.18	3.18	3.27	3.27	3.18	3.18	3.13	3.13	3.13	3.13	3.13	3.13	3.26	3.26	3.23	3.23	3.00	3.00	3.10	3.10	3.10	3.10	3.10	3.10	
平均																															



2019年度4年生 授業評価(教員評価)

科目名	医薬品化学II		医薬品情報学		病態薬物治療学V		薬物動態学II		がん化学療法学		漢方治療論		薬事関係法規・制度		臨床薬物動態学		臨床薬学英語		臨床薬学英語			
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	A	B	全	A	B		
クラス	3.94	4	4.06	4.08	4.06	4.08	4.08	4.08	4.08	3.72	3.85	3.93	3.93	3.93	3.94	4.15	3.98	3.87	4.15	3.98	3.87	
①SBOs	4.02	4.01	4.11	4.13	4.11	4.13	4.13	4.13	4.13	3.76	3.9	3.92	3.92	4.01	4.23	3.98	3.91	4.02	4.23	3.98	3.91	
②シラバスとの整合性	3.91	3.83	3.94	4	3.94	4	4	4	4	3.69	3.91	3.59	3.59	3.82	3.98	4.15	4.02	3.98	4.15	4.02	4.02	
③興味がわく工夫	4.06	4.01	4.11	4.23	4.11	4.23	4.04	4.04	4.03	3.79	4.03	3.8	3.8	4	4.23	4.06	3.96	4.23	4.06	4.06	3.96	
④理解させる工夫	3.83	3.88	4.06	4.04	4.06	4.04	4.08	4.08	3.92	3.56	3.92	3.61	3.61	3.85	4.15	3.91	3.79	4.15	3.91	3.91	3.79	
⑤理解度に応じた対策	4.19	3.99	4.25	4.08	4.25	4.08	4.08	4.08	4.13	3.48	4.13	3.93	3.93	4.01	4.27	4	3.81	4.27	4	4	3.81	
⑥聞きやすさ	4.11	3.79	4.06	4.02	4.06	4.02	4.02	4.02	3.94	3.58	3.94	3.85	3.85	3.96	4.25	4.07	4.02	4.25	4.07	4.07	4.02	
⑦見やすさ	4.02	3.95	4.06	4.19	4.06	4.19	4.19	4.19	3.64	3.64	3.94	3.84	3.84	3.91	4.23	4.09	4.04	4.23	4.09	4.09	4.04	
⑧集中できる環境	4.01	3.93	4.08	4.10	4.08	4.10	4.10	4.10	3.65	3.65	3.95	3.81	3.81	3.94	4.19	4.03	3.93	4.19	4.03	4.03	3.93	
平均																						



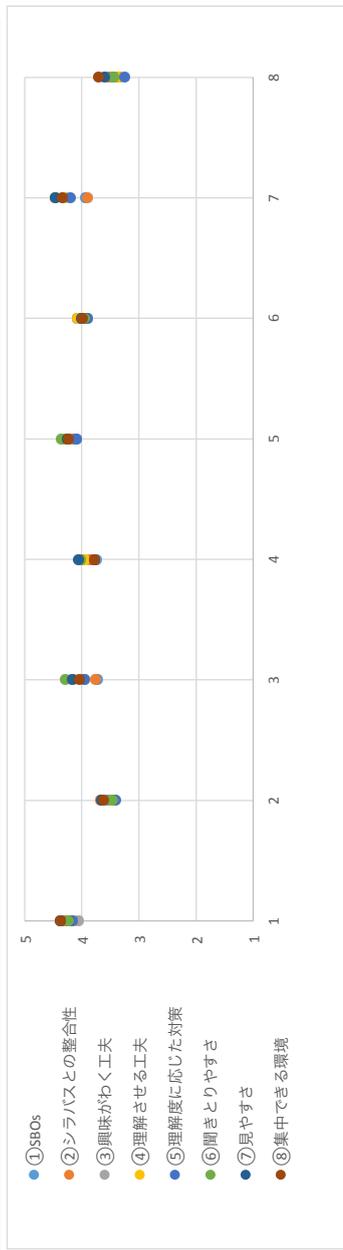
2019年度4年生 授業評価(学生自己評価)

科目名	医薬品化学II		医薬品情報学		病態薬物治療学V		薬物動態学II		がん化学療法学		漢方治療論		薬事関係法規・制度		臨床薬物動態学		臨床薬学英語		臨床薬学英語			
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	A	B	全	A	B		
クラス	2.98	3	3.17	3.07	2.92	3.05	3.02	3.02	2.99	3.03	3.02	2.99	3.03	3.03	3.11	3.62	2.85	3.11	3.62	3.15	2.85	
⑨シラバス事前確認	2.85	2.72	2.94	2.93	2.77	2.89	2.86	2.86	2.75	3.11	2.86	2.75	3.11	2.75	3.48	3.47	3.15	3.11	3.47	3.15	3.15	
⑩予習	3.32	3.25	3.51	3.52	3.45	3.35	3.27	3.27	3.48	3.56	3.27	3.48	3.56	3.48	3.73	3.6	3.38	3.56	3.47	3.38	3.38	
⑪復習	3.36	3.42	3.55	3.37	3.37	3.51	3.42	3.42	3.55	3.73	3.42	3.55	3.73	3.55	3.6	3.6	3.39	3.73	3.6	3.39	3.39	
⑫理解度	3.13	3.10	3.29	3.22	3.13	3.20	3.14	3.14	3.19	3.36	3.14	3.19	3.36	3.19	3.52	3.52	3.19	3.36	3.52	3.19	3.19	
平均																						



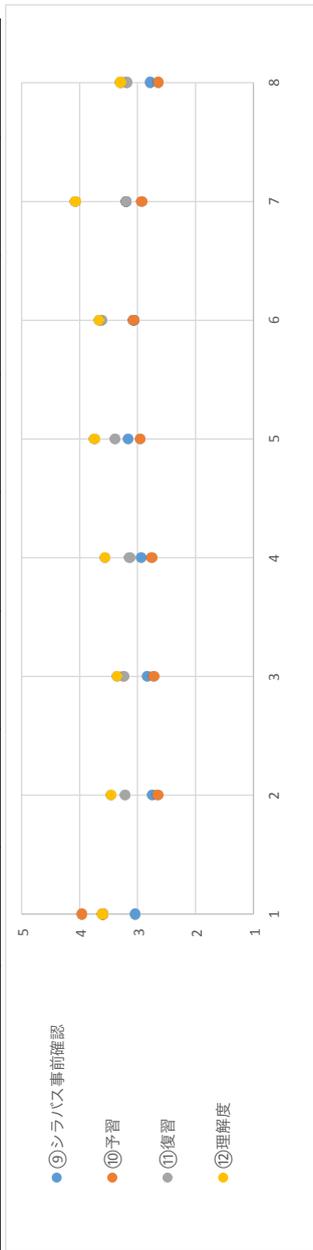
2019年度6年生 授業評価(教員評価)

科目名	ゲノム創薬論	医薬品開発論	漢方疾患治療論	救急医療概論	健康管理学	処方解析学	ターミナルケア論	地域薬局論
	全	全	全	全	全	全	全	全
クラス								
①SBOS	4.35	3.55	3.72	3.74	4.09	4.07	3.93	3.36
②シラバスとの整合性	4.27	3.67	3.76	3.84	4.14	3.98	3.9	3.53
③興味がわく工夫	4.06	3.47	3.96	4	4.2	3.89	4.3	3.47
④理解させる工夫	4.17	3.48	4.16	3.94	4.3	4.07	4.3	3.36
⑤理解度に応じた対策	4.17	3.41	3.96	3.78	4.09	3.89	4.2	3.25
⑥聞きとりやすさ	4.23	3.47	4.28	4.02	4.36	3.96	4.47	3.44
⑦見やすさ	4.37	3.66	4.16	4.06	4.25	4	4.47	3.59
⑧集中できる環境	4.37	3.62	4.04	3.78	4.23	3.98	4.33	3.71
平均	4.25	3.54	4.01	3.90	4.21	3.98	4.24	3.46



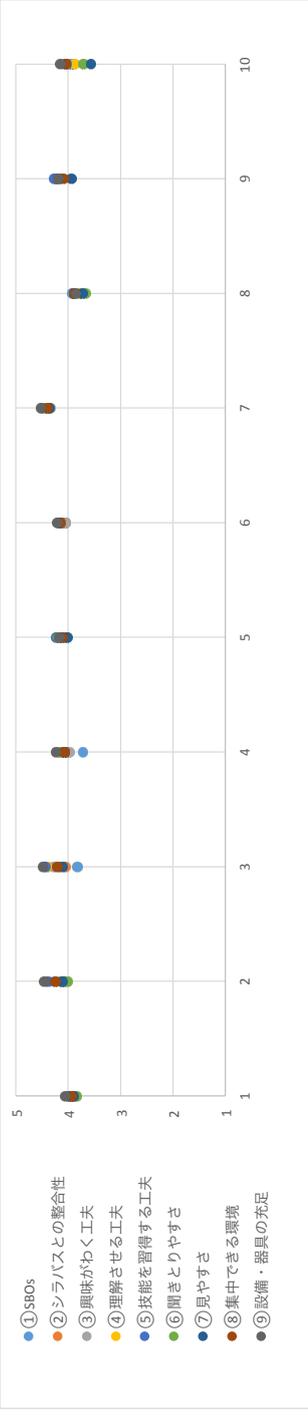
2019年度6年生 授業評価(学生自己評価)

科目名	ゲノム創薬論	医薬品開発論	漢方疾患治療論	救急医療概論	健康管理学	処方解析学	ターミナルケア論	地域薬局論
	全	全	全	全	全	全	全	全
クラス								
⑨シラバス事前確認	3.04	2.75	2.84	2.94	3.16	3.07	3.2	2.78
⑩予習	3.96	2.65	2.72	2.76	2.95	3.07	2.93	2.64
⑪復習	3.6	3.21	3.24	3.14	3.39	3.62	3.2	3.19
⑫理解度	3.61	3.46	3.36	3.56	3.75	3.67	4.07	3.29
平均	3.55	3.02	3.04	3.10	3.31	3.36	3.35	2.98



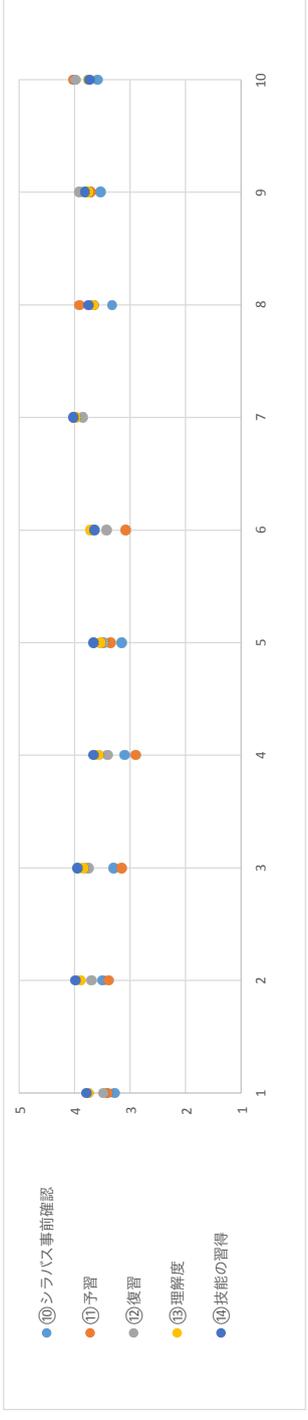
2019年度 2～4年生 実習評価(教員評価)

科目 クラス	基礎実習		生物系実習			衛生薬学実習		薬剤学実習		物理系実習		化学系実習	
	全	前	後	全	全	全	全	全	A	B	全	A	B
①SBOs	3.95	4.07	3.82	3.72	4.03	4.12	4.4	3.93	4.2	3.94			
②シラバスとの整合性	3.92	4.11	4.06	4.02	4.08	4.05	4.38	3.89	4.23	4.04			
③興味がわく工夫	3.99	4.13	4.27	3.97	4.13	4.05	4.34	3.76	4.23	3.94			
④理解させる工夫	3.91	4.25	4.4	4.13	4.18	4.14	4.45	3.78	4.18	3.88			
⑤技能を習得する工夫	3.97	4.38	4.44	4.07	4.23	4.19	4.51	3.89	4.27	4.03			
⑥聞きとりやすさ	3.83	4	4.16	4.18	4.19	4.16	4.4	3.67	4.16	3.71			
⑦見やすさ	3.89	4.11	4.1	4.07	4.01	4.16	4.36	3.73	3.94	3.56			
⑧集中できる環境	3.94	4.25	4.21	4.07	4.11	4.14	4.39	3.88	4.09	4.06			
⑨設備・器具の充足	4.06	4.46	4.48	4.23	4.16	4.21	4.52	3.85	4.19	4.15			
平均	3.94	4.20	4.22	4.05	4.12	4.14	4.42	3.82	4.17	3.92			



2019年度 2～4年生 実習評価(学生自己評価)

科目 クラス	基礎実習		生物系実習			衛生薬学実習		薬剤学実習		物理系実習		化学系実習	
	全	前	後	全	全	全	全	全	A	B	全	A	B
⑩シラバス事前確認	3.27	3.5	3.3	3.1	3.16	3.32	3.54	3.58					
⑪予習	3.4	3.39	3.16	2.9	3.35	3.07	4	3.91	3.71	4.03			
⑫復習	3.48	3.69	3.75	3.41	3.48	3.42	3.85	3.65	3.91	3.99			
⑬理解度	3.74	3.9	3.84	3.57	3.54	3.72	3.99	3.66	3.75	3.74			
⑭技能の習得	3.79	3.98	3.95	3.65	3.65	3.63	4.01	3.75	3.81	3.73			
平均	3.54	3.69	3.60	3.33	3.44	3.46	3.96	3.66	3.74	3.81			



3.学生コメント総括

令和1年度 学生による授業および実習評価アンケートのコメント欄に記載された代表的な内容を以下に記す。

【授業】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none">・説明が丁寧で理解しやすい・生徒の理解度に合わせた説明・聞きとりやすい声、大きな字・前回の復習がある・時事ネタ、例え話など授業内容とつながる雑談・スライド中の写真や絵の工夫、分子模型を使った説明・プリントの配布がある・小まめな確認テスト・宿題プリント・補習をしてくれる・例題、演習が多い・学生の理解度に合わせた講義の進め方・理論的かつ丁寧な説明によって理解が深まる・熱意を感じた・先生が明るく楽しそうに授業をする・	<ul style="list-style-type: none">・板書方法 (文字の読みづらさ、位置、チョークの色、消すタイミングなど)・聞き取りにくい声 (マイクの音量、性能の問題を含む)・講義ペース (早すぎる、或いは遅すぎる)・スライドがもらえない・スライドのアップ時期を早く・スライドの作り方(配置、配色、フォントサイズ)・重要な部分とそうでない部分のメリハリがはっきりしない・間違いが多い (板書、資料など)・答えがもらえない (レポート、宿題など)・教科書の種類を変えて欲しい・教員間の情報共有・学生の私語を注意して欲しい・講義中にアンケートを取ると講義の邪魔になる。

【実習】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none">・ デモンストレーションがある・ 指導が丁寧・ 質問しやすい・ 事前準備が整っている・ 楽しいと感じる・ 授業で習ったことを体感できる	<ul style="list-style-type: none">・ 器具の破損、不足・ 実習書が読みづらい・ 教員によって説明が違う・ 説明が難しい・ レポートの採点基準を明確化して欲しい

【総括】

- ・ 丁寧かつ簡潔な説明は、教科への興味と理解に結びつく
- ・ 生徒の小まめなテストの実施は学生自身が理解度を把握しやすい
- ・ 関連科目の教員間で情報を共有し、重複や不足、相違点をなくす

教員相互授業参観報告

令和元年度

2019 年度「教員相互授業参観」実施要領

FD 委員会

1. 目的

教員の講義力向上の一助とするとともに、受講している学生の受講態度等を観察し、教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業参観を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域を超えた講義など、幅広く自由に選択できる。

○実施期間：以下の第1回目と第2回目の期間中に、年1回は参観すること。

第1回目：6月10日～7月31日(2期)

第2回目：10月1日～12月24日(3期・4期)

○対象科目：1年生、2年生、3年生、4年生の講義授業科目

(実習科目や演習科目は除外)

参観対象科目(1～4年次の科目)から、参観したい科目を自由に選ぶこと。

○手順

手順1 参観希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の承諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 参観終了後、感想用紙に感想を記入し、電子ファイルをメールアドレス(安川)：k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp宛てに添付メールで提出する。

○感想用紙：dysv10 → public_new → 委員会 → FD委員会 → 教員相互授業参観 → 2019年度 → 「2019年度授業参観感想用紙.docx」を使用すること。

提出は、第1回目は8月3日、第2回目は12月27日までとする。

3. 附記

- 提出された感想用紙はFD委員会(委員長)が保管し、コピーを講義担当教員に渡すものとする。また翌年度の授業参観実施のための参考資料とする。
- 第1回目と第2回目の感想提出教員のリスト等を、各回提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡する。

2019年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時	月 日 時限	参観者名	
学年・期・クラス 講義名	年・ 期・ クラス	講義担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

(2) 参観者から見た学生の様子

令和元年度 教員相互授業参観感想の提出状況

	学年	クラス	参観日	参観者	授業科目	授業担当者
1	1	全	2019/11/4	長島 史裕	基礎生物学	香川 正太
2	1	A	2019/11/21	小松 生明	機能形態学I	清水 典史
3	1	B	2019/12/5	森内 宏志	機能形態学	清水 典史
4	1	A	2019/12/19	門口 泰也	理論化学	中原 広道
5	1	A	2019/12/24	森永 紀	理論化学	中原 広道
6	1	A	2020/1/9	濱村 賢吾	機能形態学I	清水 典史
7	2	漢方	2019/6/24	池谷 幸信	漢方薬理学	飯塚 晃
8	2	A	2019/7/12	白谷 智宣	物理化学 I	田島 健治
9	2	B	2019/10/31	長田 茂宏	生命科学 II	廣村 信
10	2	漢方	2019/11/25	飯塚 晃	漢方薬効免疫学	城戸 克己
11	2	A	2019/12/5	山脇 洋輔	病態薬物治療学 I	小山 進
12	2	漢方	2019/12/9	福田 直通	漢方薬効免疫学	城戸 克己
13	2	A	2019/12/9	古賀 貴之	環境衛生学 I	副田 二三夫
14	2	A	2019/12/13	藤井 清永	物理化学 II	田島 健治
15	2	B	2019/12/16	中原 広道	生薬学	森永 紀
16	2	A	2019/12/16	岡崎 裕之	物理化学 II	田島 健治
17	2	B	2019/12/16	田島 健治	環境衛生学 I	副田 二三夫
18	2	A	2019/12/17	城戸 克己	有機化学 IV	増田 寿伸
19	2	B	2019/12/19	古賀 和隆	環境衛生学 I	副田 二三夫
20	2	B	2019/12/19	横山 さゆり	環境衛生学 I	副田 二三夫
21	2	B	2019/12/19	有竹 浩介	環境衛生学 I	副田 二三夫
22	2	A	2019/12/20	廣村 信	物理化学 II	田島 健治
23	2	B	2019/12/23	小川 鶴洋	環境衛生学 I	副田 二三夫
24	2	B	2019/12/23	跡部 秀之	生薬学	森永 紀
25	2	B	2019/12/24	大渡 勝史	有機化学 IV	増田 寿伸
26	2	漢方	2019/12/24	増田 寿伸	漢方薬効免疫学	城戸 克己
27	2	A	2020/1/8	清水 典史	環境衛生学 I	副田 二三夫
28	2	A	2020/1/10	井上 寛	物理化学 II	田島 健治
29	2	全	2020/1/17	小山 進	物理化学 II	田島 健治
30	3	A	2019/6/12	有馬 英俊	物理薬理学	中原 広道
31	3	A	2019/7/12	小武家 優子	環境衛生学 II	副田 二三夫
32	3	B	2019/10/4	松原 大	病態薬物治療学 IV	山脇 洋輔
33	3	B	2019/11/1	安川 圭司	病態薬物治療学 IV	山脇 洋輔
34	3	B	2019/11/4	香川 正太	分析化学 IV	長島 史裕
35	3	B	2019/11/20	村山 恵子	調剤学	香月 正明
36	3	A	2019/11/26	副田 二三夫	公衆衛生学	小武家 優子
37	3	B	2019/12/16	入倉 充	製剤学 II	有馬 英俊
38	3	B	2019/12/17	エップ デニス	公衆衛生学	小武家 優子
39	3	AB	2019/12/18	香月 正明	薬物動態学 I	入倉 充
40	3	AB	2019/12/18	古賀 多津子	調剤学	香月 正明
41	3	AB	2019/12/18	窪田 敏夫	調剤学	香月 正明
42	3	B	2019/12/24	柴山 周乃	公衆衛生学	小武家 優子
43	3	B	2020/1/10	三嶋 基弘	感染症治療学	森山 峰博
44	3	全	2020/1/15	森山 峰博	薬物動態学 I	三嶋 基弘
45	4	全	2019/6/10	俵口 奈穂美	薬事関係法規・制度	大光 正男
46	4	A	2019/6/13	有森 和彦	臨床薬学英語	大光 正男
47	4	全	2019/6/24	鎌内 朋子	医薬品情報学	俵口 奈穂美
48	4	全	2019/7/8	高口 寛子	薬事関係法規・制度	大光 正男
49	4	全	2019/7/10	大光 正男	薬事関係法規・制度	神村 英利

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「1年」

○アクティブラーニングの講義形式であるため、学生の受講状況や講義の進め方について興味があった。1講時目は、前週の講義で各グループで決定したテーマについて発表の時間で、各グループとも自分たちで決めたテーマについて調べてきていたように思う。アクティブラーニングは、講義の進行、発表および評価などが難しい点があると思うが、これまで基礎生物学で続けられている形式であるためスムーズに発表も行えていたように思う。準備等で担当の先生方の苦労もあるかと思った。アクティブラーニングは参加型の講義であるため、学生にとっては積極的に情報を取ることができるし、学生の探究心を養うことができるので良いことだと思う。しかし、グループ内で温度差があると難しい点もあるが、グループ内で一つの事柄をまとめる難しさを知ることできると思う。

○パワーポイントや板書やビデオ様々な媒体を併用しながら丁寧に進めていく授業でした。声の大きさもスピードとも丁度よく、聞き取りやすかったと思います。また、重要なところは配布プリントに穴埋めをさせながら、何度も強調して説明しており、わかりやすい授業でした。大変工夫されている授業だと思いました。

○板書の文字が大きく見易かった。学生がついて行き易いよう、ゆっくりとはっきり喋っておられる。スライドと板書を効果的に使い分けておられる。よく整理された授業資料の配布 (学生記入欄や参考知識の欄を設けられている)

○授業の前半に、今後の授業やテスト日程などの全般的な予定をアナウンスすることで、講義の全体的概要を学生に認知させるよう工夫がされていた。

本日は異核多原子分子における各原子 (炭素、窒素および酸素) の混成軌道に関する授業が展開された。1年生にはイメージしにくい難しい分野だと思うが、手を使わせることで、理解させていた。化合物と電子の軌道を示す問題がスライドで映写され、学生がそれを見て解いていくという形式。スライドの構造式や文字は大きくシンプルで大変見やすい。10以上の問題数を与え、学生は繰り返し解答する。初めて学ぶ学生にとっては相当なトレーニングで、頭で理解した内容が身に付くという体験ができるのではないかと思った。スライドでは構造式が名称とともに問題として与えられていたが、テストでは構造式で与えることもあるし、名称で与えることもあるなど、テストの問題形式も例に挙げて説明されており、学生の興味がそがれない。構造式と名称が知っていることが前提となるので、記憶することが重要であることも説かれていた。さらに、問題は徐々に難しいものにレベルアップしており、学生自身で理解度が把握でき自信がもてるよう工夫がなされていた。混成軌道の概念は有機化学の基礎であり、超重要項目である。有機化学後半を担当する私としては、どのように学生が混成軌道を学んでくるのかよく分かり、今後の授業で参考にさせていただく所存である。

○4名の1グループで18グループの島に分けて座席を指定しており、今後、アクティブラーニングを導入する際の参考になりました。コアカリのSBOをスライドで提示し、関連する教科書のページを明記しており、受講生は何を学ぶべきなのかを把握したうえで、授業内容を理解することができると感じました。スライドの内容はポイントがしっかり表されており、ゆっくりとした口調、ペースで説明されており、受講生は講義内容を理解しやすいと思いました。薬剤師国家試験の過去問の内容も取り入れており、1年生から国家試験への意識づけもできるよう工夫が要所要所になされており、初年次教育の参考になりました。

○中枢、皮膚に関する講義で、私が学生のときに聞きたかったなと思えるくらいに分かりやすい講義でした。パワーポイントや板書を併用しながら丁寧に進めていく授業でした。スライド1枚に対して説明する時間を十分に確保しており、聞き逃した部分があってもスライドをみれば理解できるよう工夫がなされていました。到達目標をその都度明示することで、重要なポイントを事前に知らせており参考になりました。スライドの図での組織の絵が非常にわかりやすかったです。声の大きさもスピードとも丁度よく、聞き取りやすかったです。板書の字も大きく、講義室の後列部分の学生にも充分に見える大きさであったと思います。薬剤師として今回勉強する内容が、将来どう役に立つかアウトプットを説明されており非常に参考になりました。

(2) 参観者から見た学生の様子「1年」

○各グループで担当を決めて調べてきた内容を、まとめて発表できていたように思う。学生も真剣に取り組んでいたように思う。

○生徒は全員、授業にまじめに取り組んでおり、板書した内容をワークシート形式の配布プリントに記載することに集中していました。特にムービーを用い説明した際は、学生の集中度を感じました。今後、自身が講義する上で大いに参考になりました。

○数名風邪気味の疲れた様子の学生を除いて、授業に集中していた。学生へ復習を兼ねて問いかける機会があれば、受動的にならずより学生の脳も活性化されると思う。

○学生はグループごとに指定された席に座っており、問題を解く際にはグループで話し合っってよいことになっていた。学生は熱心にひたすら紙に書いて問題を解いていた。問題の解説の際も、学生の理解するぞという気迫が感じられた。

○遅刻する学生はほとんどおらず、学生は決められたグループの座席に着席し、授業が

スタートすると学生は皆ずっと講義に入り込んでおり、居眠りや私語を行う学生もなく、受講生が集中しやすい授業環境が整えられていました。先生が重要ポイントを説明する際には、配布した資料へ追記する様子が見られ、学生も積極的に授業へ参加する姿勢が感じられました。

○学生は静かに講義を聞いていました。大部分の学生は、板書の事柄をノートに書き留めており、全体的に講義に集中していたように思います。

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。「2年」

○パワーポイントによる講義で、説明の中心となる図がレジュメとなっており、図がカラーなので受講生に内容が分かりやすいと思います。パワーポイント映像および配付プリントにおける臨床値の説明にはイラストが入っており、受講生が視覚的にも理解できるよう工夫がなされていました。HDL コレステロール、LDL コレステロール、超低密度コレステロール(VLDL)、胆汁、消化酵素など、重要な語句に加冠しては丁寧に説明し、その重要度が受講生に理解してもらえるように工夫されていました。話し方は、丁寧にはっきりとした口調であり、聞きやすく、最後列の受講生でもはっきり聞き取れるよう一定速度での説明でした。後半は、漢方薬理の具体的な例として、今回の講義内容と関連する数種の漢方薬についての自身の研究を説明し、漢方の有用性を理解してもらえるように授業展開を工夫されていました。本講義を参観し、重要事項を丁寧にゆっくり説明するということを今後の自分の授業に取り入れたいと思います。

○講義最初に課題演習を実施することで、学生に知識の習得度を認識させ、解答・解説を行うことで定着をはからせるスタイルは非常に参考になりました。資料もすべて配布することで、学生に必要なこと・習得すべきことを知らせることは、学生が勉強するにあたってやりやすいのかと思いました。

○冒頭 30 分程度通常講義、その後、数回分の講義の演習問題（当日配布）を 15 分程度で解く時間が与えられ、その後解説がなされる講義を参観させていただきました。事前に講義資料がポートフォリオにアップロードされており、その内容の解答を含めて、板書による解説が行われました。事前に講義内容が明確にされており、予習がしやすいように工夫されていました。板書の文字が明確であり、後部座席からも見やすい状態でした。板書のスピード、それを書く時間が適切に与えられていました。全体の時間配分に無理が無いように計画されていた点は参考にさせてもらいたいと感じました。講義内容は教科書に沿っていつているので、復習が行いやすいようにも配慮されていました。講義内容の解説だけではなく、これま

でに受講した講義、今後受講する講義、日常生活との関係など、講義内容と様々な事柄とのつながりが説明されており、理解度を増す工夫が多く見られました。演習問題の解答解説の際は、単純な説明だけではなく、考え方の順序が説明されており、他の問題でも解けるように説明がなされていました。そのような配慮は自分の講義にも是非とも取り入れる必要があると感じました。

○漢方薬学科 2 年生に対する講義であった。漢方薬の introduction が主な講義内容であった。配布プリントに沿って、大変わかりやすい講義であったと思う。

講義も、要所要所で学生の認識を確認しながら進めていくことで、漢方の理解度を深めていくよう工夫がなされていたと思う。学生もほぼ全員が集中しているように感じた。

学生の集中をなくさせない工夫ができていてよかったと思う。

○疾患の特徴や最新の概念などを盛り込みながらの講義であり、大変面白かった。疾患に興味がある学生であれば、この講義に触発され、講義後に自学自習によるさらなる学びが期待できるであろう。一部、講義を全く聞かない（ほかの科目のテスト勉強らしきものをしている）学生がわずかにいた（下に記載する）が、そのような学生との差は広がってしまう だろうがそれは当然の結果であるため、問題ない。

○前週の説明などを講義中に入れ各週の関連を保っている。漢方の基本概念の三陰三陽をそれぞれの特徴と共にわかりやすく教えている。治療方針（バランスをとる）や、臓器と外因・内因との関係を説明し把握させようとの工夫がみられる。五苓散に関する多くの症例などを話し、興味深く、学生は静かに講義を聴いている。

○プリントを配布されていましたが、ただやみくもに図表を張り付けたものではなく、講義の進行に合わせてプリントが進むように配置されているのが参考になりました。また、今回の講義で扱っていた領域は国試でも思考を問う問題として出やすい領域でもあるためか、暗鬼に走らず論理について丁寧に解説されている様子が印象的でした。

○授業の冒頭に小テストが行われ、続く解説によって、前回の授業内容の復習が試みられており、その取り組みは学習内容の理解の定着に有効であり、参考になった。授業はスライド、黒板の両方が適材適所で用いられ、スライドのコピーがプリントとして配布されていた。特に、タブレット端末によるスライド投影を活用されており、適時、投影スライドに書き込みを行うなどの工夫は、たいへん参考になった。当日は物理力学の授業であったが、身近な事例を挙げながら講義されており、物理現象の理解に有用なイメージを重視した教授方法はたいへん勉強になった。同じ物理系の授業を担当するものとして、田畠先生の取り組み、講義手法を、担当する講義に活かしていきたいと思います。

○教科書を PDF 化し、授業中に投影しながら講義されていた。教科書の大事なところに、前もってマークされていたので、どこが大事なのか学生にとって分かりやすいと思った。また補足資料としてパワーポイント資料を投影されていた。この 2 つの資料を交互に投影することで、学生の注意力を引き付ける効果があり、良い方法だと思った。

○講義の最初に小テストを行い、前回講義の復習を行って知識の定着と当日の講義への導入がスムーズに行われているように感じました。講義内容はスライドとスライドを印刷した配布資料を用いて丁寧に解説されており、また適宜スライドを拡大して用いることでわかりやすい説明がなされていました。エントロピーや仕事とエネルギーの話など複雑な内容でしたが、身近な例に例えつつ学生の理解につながるような講義がなされていると感じました。

○授業開始に約 15 分程度これまでの講義内容の小テストを行っていた。この小テストは学生の理解度を図るとともに、日々の復習を行わせることができる点は良かったと思う。学生も真剣に取り組んでいた。また、1 限目のクラスとは異なる問題を解かせることは、公平性も保ちつつ、多くの問題に慣れさせることができ、学生には良い点ではあるが、作問する副田先生の苦労は並大抵ではなく、頭が下がる思いでした。講義はスライドによる説明であったが、同じ資料が事前に学生にも配布されていたため、教員—学生が相互に確認しながら講義が進んでいたように感じた。また、教科書の内容にもふれ、配布資料だけに偏らない、バランスの取れた講義であると思いました。

○パワーポイントと黒板を使用しての説明を行っている点。プリントを配布してプリントも参考としているので学生が集中力を保つことが出来る。有機化学の内容も分りやすく理解度が深まる工夫がなされていました。

○スライドを用いた講義であるが、スライド内にメモ等の重要事項を直接記入しながらの進行であるため、配布資料のどこに追加記入をすればよいかがとてもわかり易い。配布資料も重要項目だけでなく、それに関する問題も併記されており、復習がやりやすくなっている。また、併記型であるため、問題が解けなくても、どの部分を見直せばよいか、とてもわかり易くなっている。

○配布プリントが 2 色プリントでわかりやすい。写真、イラストを積極的に取り入れ、理解度や記憶力を促している。配布プリントをスクリーンに映して、直接、線を入れたり、注釈を書き入れているため、プリントの内容や進行具合が把握しやすい。映像資料をパソコン内に入れて必要な箇所を活用している。たとえ話を盛り込んで内容を理解しやすいように工夫がされている。配布プリントの中にその日の授業内容の問題も付いているため、

内容の理解度が把握できるし、復習にもなる。マイクの音量や話すスピードも最適であった。

○到達目標が明確に示されている。タブレットを用いて、適宜、重要ポイントを拡大する等して学生に印象づけることに努めている。その都度、小問題（到達テスト）を課して、解答、解説している。

○講義のはじめに、前回の講義内容の理解度を図るために小テストを行っていた。解説は非常にわかりやすく、学生自身が理解できていなかったところを、ノートに書き込むなどして、理解を深めようとする努力が見受けられた。講義内容は、わかりやすい図が多く使用されており、物理化学 = 数式という意識にならないような配慮があった。聴講していた私自身も理解しやすかった。

○小テストなどで日頃から学生が科目に対する勉強をするようにしている点は重要だと感じました。また、明確にテストでの問い方などを示しており、学生にとってどのような点が重要であるかということが分かりやすくなっていると思われまます。教科書などもページ数などを明示しておられ、補足も十分であると感じました。ただ、タブレットで操作されているため、脚注などを書き加えできる点は良いのですが、ページの移動や拡大のスピードで追いつけない学生がいるのではないかと2年次学生の近況と照らし合わせ考えております。

○先生の人柄が出た実直で丁寧な講義である。ユーモアのある一面も見受けられて微笑ましい。

○年末最後の授業となり浮足立っている様子の学生が集中を欠かないよう、授業の後半には演習を組み入れるなど工夫が見られた。これまでに行った授業と似た内容であることを示し、どこが似ていてどこが異なるのか明確に解説していた。広い教室だったがマイクの音声は良くとお聞きやすかった。スライドに余計な文字や情報を入れずに視認性を良くしてあり、情報は音声で補う形式で見やすかった。情報を追加していくことが重要な場面では板書を使い、そうでなければスライドを活用し、スムーズに講義が進んでいた。

○講義スタート、事前に配布していた問題演習プリントの解説・解答がおこなわれた。これまでの講義内容を再確認することで、当日の講義に繋げていく工夫がなされていた。講義中、受講生が少ないためか静かな雰囲気学生は板書事項や説明内容をプリントに書き込んでいた。講義の特性上、学生にとっては漢方処方の名称、それに含まれる植物成分名など難しい漢字とその読みを覚えていくのは大変そうな気がした。

○配布プリントをスライドで写し、説明箇所を拡大表示することで学生が講義を理解しやすいように工夫がなされていた。また、スライド上では重要な語句が赤色で示されていた。説明においても、重要なポイントを強調し、適宜教科書を開かせて説明していた。プリントには対応する教科書のページが記載されており、プリントに記載しきれない図やグラフが教科書上で確認できるよう工夫されていた。映像教材を利用して、学生の理解を深めていた。

○非常に聞き取りやすく、板書も丁寧に書かれていました。ゆったりとしたペースで進めておられるのも良かったと思います。今後、自身が講義を実施していくうえで大変に参考になりました。

○レジメが簡潔で見やすかった。学生の理解速度に応じて、注意深く授業を進めていた。タブレットを使用したポイントの分かり易い授業を展開していた。学生の理解度を深めるための課題が授業中に出されていたのが良かったと思う。

(2) 参観者から見た学生の様子「2年」

○講義開始時から受講生の聴講態度は良く、おしゃべりする受講生はなく、聴講していた。途中退席者もなく、受講生は、講義中の重点事項をプリントで確認したりノートをとるなどして熱心に聴講していた。居眠り学生が1名いましたが、「本講義内容を聞き逃すと今後の薬理学の学びや定期試験にも影響する」ということをお話し、受講生が眠らないように注意・工夫がなされていました。

○非常に熱心に全員が演習に取り組んでいるので、講義のもっていき方がいいのであろうと思います。演習問題の難易度も適切に設定されているのであろうと思われま。講義も後方座席の学生も集中して聞いている姿に感銘をうけました。

○一限の講義でしたが、遅刻する学生もいなく、熱心に板書を自らのプリントに書き込んでいました。余裕がある学生は教科書を見ながら対応していました。演習問題を解く時間は、周りの学生との相談をして構わないと言われていましたが、多くの学生がこれまでのプリント、教科書を参考に自ら解こうとする努力が感じられました。

○ほぼ全員が講義に集中できていたと思う。後ろの座席の学生の数名は、昼食後の講義のせいか1-2名が寝ていたようであるが、pointのところではプリントにメモをしていた。漢方の概念は学生には理解しにくいところではあるが、理解しようとする態度が感じられた。

○大多数がまじめに講義を受けていた。後席に、ほかの科目の勉強をしてやや騒がしい女子学生が4名いたので、口頭で注意した。その後は静かになった。

○時間で始まり、24人と少ないが、静かに講義を聴いていた。

○私が見た範囲では、学生はプリントにマークしたり記入したり一生懸命でした。特に副田先生が強調するところは重要なところだということを学生も理解しているようで、強調されている箇所には目立つように書き込みをしている学生も見受けられました。

○ほとんどの学生が講義に耳を傾けており、教授内容をプリントに書き込むなど、真剣さがうかがえた。

○一講時目であったが、遅刻者もおらず、静粛に講義が進行していた。居眠りをする学生もおらず、教科書、配布資料に追記している姿が印象的であった。森永先生の話している際に、うなずいている学生も見られ、雰囲気の良い環境づくりが徹底されていると感じた。

○小テストの解説時から熱心にメモを取りながら講義を聴講していた。私語をしている学生もおらず、まじめに取り組んでいる印象だった。

○小テストは、真剣に受けていた。また、講義も学生はまじめに取り組んでいた様子でした。

○1限目であったので遅れてくる学生がいた。全体的に静かに講義を受講していました。教室中央より後方に座っている学生の中には、講義に集中してない者も散見されました。

○ほとんどの学生が、重要事項をプリントに記入しながら、真剣に講義を聴いていた。ただ、主に留年生が集中力を欠いており、講義担当者にばれないようにしながら、講義以外のことをやっていたように感じられた。

○携帯電話を見る学生はおらず、熱心に講義を聴いていた。留年生で居眠りをしている学生が2名ほどいた。

○講義前に配布された資料を用いて、教科書と照らしながら、集中している学生が多い。

○学生はまじめに取り組んでいた様子でした。座席の後ろの方に学生が固まっていたが、座席位置は関係なく、学生は一生懸命に取り組んでいることが感じられた。

○概ね、授業に集中している感がありましたが、前方に学生が少なく、中盤あたりに比較的固まっており、後方の学生は多くスマートフォンなどを手にしている様が見られました。1名途中で退席するものもありましたが、凡そ問題なく思いました。

○先生との信頼関係が構築された中での授業である。

○広い教室であったため半分以上の学生が後方の席に座っていたが、騒いだりよそ見をしたりという集中を欠いた行動は見られなかった。眠気を覚えている学生は若干名見られたが、眠ろうとしている学生はいなかった。全体として、良く集中しており、先生の講義を書き取ろうとする姿勢が見られた。

○事前配布のプリントに解説結果などを真剣に書き込んでいた。漢方薬学科に特化した講義科目であり、聴講の雰囲気も極めて静かであった。

○ほとんどの学生は先生が説明した重要なポイントに印をつけたりして、講義に集中していた。しかし、後方に着席している学生の一部は、終始隣同士でおしゃべりしていたりスマートフォンを操作したりしていた。

○特段に気になる様子は見られませんでした。田畠先生の指導が行き届いているのだと思います。

○授業開始時間前に、A,B両クラスの学生が多数着席し、講義を待っていた。最後列席の学生も課題に熱心に取り組んでいた。私語をする学生はほとんど見られなかった。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「3年」

○率直な感想として、とても良い授業であった。10時45分 時間通りに授業が開始された。座席が予め決められていたため、教室の後方に座っている学生はいなかった。教科書を使って授業が行われていて、物理薬剤学の中でどの部分についての説明が行われていたのかが明確であった。パワーポイントを使って講義が行われたが、予め e ポートフォリオにファイルがアップロードされていて、学生はタブレットを見ながら、またはプリントアウトしたものを見ながら、授業を聞いていた。パワーポイントの1ページに適量の情報が示されていた。授業冒頭の7分間に前回の授業の復習が行われた。パワーポイントだけでなく、説明が必要な部分に関しては黒板に板書も行われていた。Young 式および濡れの種類（拡張ぬれ、付着ぬれ、浸漬ぬれ）についてとても分かりやすく説明が行われていた。NEW パワーブック 物理薬剤学・製剤学第3版（教科書）には書かれていない液滴の界面 Young-Laplace 式についての説明も行われていた。NEW パワーブック 物理薬剤学・製剤学第3版（教科書）p105：教科書には、拡張濡れ（ $\theta=0^\circ$ ）、浸漬ぬれ（ $0^\circ < \theta \leq 90^\circ$ ）、付着ぬれ（ $0^\circ < \theta \leq 180^\circ$ ）と書かれていますが、付着ぬれの角度について、他の教科書との不一致が認められた。

・67分で説明を終了し、80分まで国家試験問題の演習に充てられ、問題に対する説明も行われていた。80分からは確認テストが行われ、解答後、グループ毎にマークシートを提出させていた。

○講義内容：「解毒処置法の原理、薬物中毒に関する情報検索とその活用」「リスクコミュニケーション」

【良かった点】

(1)配布資料と教科書の連動性

・配布資料に、教科書の参照ページ、表番号が明示されており、理解しやすい工夫がされていた点。

(2)国家試験の問題演習

・国家試験を使って、既に教えた知識を確認したり、まだ教えていない知識を問題演習によって修得するようにしていた点。

(3)実習書との紐付け

・実習書の試験法と紐付けて理解させていた点。

(4)他教科(食品衛生)との紐付け

・リスクコミュニケーションを、環境と食品とを対比させて理解させていた点。

(5)PCの活用

・マイクロソフトの Surface を使って、重要なことはライブで書き込みをしていた点。

【参考になったこと】

・配布資料と教科書の連動性、国家試験の問題演習、実習書や他教科(食品衛生)との紐付け、PCの活用について、いずれも大変参考になりました。到達目標を確認し、レポート課題の

取り組みについても丁寧に説明があり、区切りのよいところで質問がないか確認するなど、学生への配慮がありました。

○その日使うパワーポイントの資料プリントを配布していた。病態薬物治療学分野であるので、疾患の概要、病態、症状から、薬理的、薬剤学的、処方の内容まで踏み込んで丁寧に解説していた。特に、薬剤師として大事なこと、国家試験、定期試験で重要なことを、各々具体的に説明していたことは、学生にとって理解しやすいと思われた。また、実際に病院薬剤師としての経験を折に触れて事例をあげているのはよかった。最後に、その日の内容に関する薬剤師国家試験問題を解答させて、丁寧な解説をしており、その日の重要ポイントのおさらいにもなっていた。全般的に、丁寧な講義の印象であった。

○講義開始前に配付資料を各自で取り、スライドをプロジェクターで映しながら講義するスタイルであった。写真やイラストが多く盛り込まれ、文字でも丁寧に説明されており、学生にとってイメージをつかみやすい講義と思われた。大事な部分は赤字で大きく書かれており、CBT や薬剤師国家試験も意識して重要な点を強調していた。

○板書を使った講義であり、学生は、説明を聞きながらノートをしっかりと執っていたので、私の講義でも、一方的なスライドの講義ではなく、板書中心とした、学生が飽きない講義が進められるように、工夫が必要であると思った。また、確認テストを行っており、単なる教科書の写しではなく、しっかり考えさせる問題を解かせていたのは、大変参考になった。マークシートの採用も、検討する必要があると思った。国家試験はマークシートであるので、問題を間違えやすいものに設定し、ひっかけ問題を作成することで、注意点を学生に喚起できる。

○1回目なので、最初に自己紹介をされて、先輩であることと、豊富なキャリアを示されていました。学生にとっては、先輩ということで親しみが沸き、先生のキャリアを見てあこがれて、目標にしたり、あるいは自分自身のキャリアパスについて考える良いきっかけになると思いました。一方で、キャリアパスの話かと思っていたら、業界や職場などでの様々な話題提供があり、それがまた、国家試験とも結びついており、上手い授業の組み立てだと感じました。また、授業の最初にシラバスや評価、試験について明確に説明がなされていました。これだけ、きちっと話しをされると、学生にも学習目標がしっかり伝わると感じました。授業で、教科書、プリント、PPT を上手く組み合わせで使用されていました。説明時には、いつも、教科書の〇〇頁とおっしゃるので、学生は教科書のどこをやっているのか、フォローしやすいと思いました。また、「教科書のここに線を引いてください」と、具体的に指示されると、学生は一斉に手を動かしていました。学生にとっては、プリントに書き込んだり、教科書を見たりと、手、耳、眼を使っていろいろな作業を行うのでバラエティに富んでとて

も良い授業だと思いました。自分自身はとかく、PPT 中心になりがちなので、ぜひ参考にしたいと思いました。授業を見学させていただき、ありがとうございました。

○学生の要望（ポートフォリオにデータをアップして欲しいなど）に対して、誠実に対応されていた点。新しい教科書を購入するよう、薦めていた点。到達目標をスライドに出していた点。講義のはじめにプレテストを行い、国家試験の必須、理論の問題を解かせ、その解き方を詳しく解説していた点。教科書を PDF にして、スライドに出していた点。問いかけるように優しく学生に語りかけていた点。

○確認問題の解答・解説をスライドに表示し、解説内容は e-ポートフォリオに up するなど、学生が話しに集中できるように工夫していた。薬剤学など他の科目との関連性を説明し学生の理解を深めていた。講義内容について国内での研究状況など最新の情報を提供していた。アンケートを取り、学生の意見を取り入れながら講義を進めている。学生の理解度に合わせた学習方法を提案している。

○This was a good class to watch because these students will be in my Clinical English class next year when we talk about the same things, such as PMDA and communication in English.

1. The introduction to the class is so important and here, they are informed not only what pages of the textbook but which SBOs and where in the syllabus it relates to. There were clear class learning goals.
2. The students can follow the class easily because of a clear explanation with the textbook pages projected on the screen.
3. The learning was connected to the national exam with some sample questions that were based on that learning. They were introduced before the lecture and then answered after the lecture. Also, points that are often included in the exam were noted.
4. The closing of the class included what the next week's class would be focused on, so students can prepare for the learning if they want.

○ご自身で作成されたテキスト、スライド、板書による講義でメリハリがありました。ワイヤレスマイクを用い、学生の方を向きながら講義をされていたため良かったと思います。スライドはポインターで指示しながら、教科書のページ数なども表記されていたため、今どこをしているのか学生にとっては分かり易いと思います。

○本日は、安定ヨウ素の所から授業参観もさせて頂きまして大変ありがとうございました。今日の授業の後半は、基本的な散薬の計算問題を解きながら解説でしたが、計算の苦手な学

生が混乱しそうな、秤取量（重量）と含量（成分量）の違いを丁寧に解説されていました。板書をしながら、このようにポイントを重点的に解説するのはとても分かりやすく良いと感じました。また先生の話し方がゆっくりで決して早口にならないところ、大事なところは何度も繰り返されるのも良いと思いました。三嶋先生の授業に似ていました。国試の過去問を用い、調剤関係の計算問題のプリントを配布して8～9割は解けるようにならないと、と予め目標を示され、次年度の CBT や国試に向け学生の勉強の指標となったと感じました。お疲れ様でした。

○調剤学の散剤の調剤に関する講義であった。国家試験問題を提示し、学生の意欲が向上するように工夫されていた。タミフルの脱カプセルの課題においては、数年前におきた実際の現場の様子を説明することで、単なる計算問題ではなく、薬剤師の実際の業務の一つであることを伝えていた点が良かった。

○声の大きさやトーンがよくとても聞きやすい講義でした。また、各論の PPT が見やすく学生も理解しやすかったと思います。今日参観したのは「感染症」の講義でしたが、小武家先生ご自身の経験談やトピックスも交え講義を進めていらっしゃいましたので、学生たちもそれらが印象として残り復習する際に役立つと感じました。時々、国家試験対策もアドバイスし内容の濃い講義でした。

○独自で編集したテキストを使って、授業を進めていた。本日の講義を進める上、以前講義した部分にも触れて、記憶の呼び起こしをしていた。必要に応じて、簡潔に板書していた。国試に出題されたところや重要事項については、覚えておくようになどと言って強調していた。薬剤学などとも関連させていた。話し方はわかりやすく、適度なスピードであった。

○授業の始めに 10 分間の小テストを実施・採点され、学生の理解度がどうかを把握しながら講義を進められている。パワーポインターを使用しての講義で、重要なポイントは赤線あるいは赤太字で示し強調してある。

（2）参観者から見た学生の様子「3年」

○授業全体を通して、とても静かに・熱心に授業を聞いていた。授業全体を通して、必要な部分はしっかりとメモをとっていた。タブレット端末をつかって授業を聞いている学生もいた。スクリーンを携帯カメラで撮影している学生もいた。40分経過後から睡眠に入った学生が1名のみだったが、60分経過後に目覚めた。今回、初めて授業に参加したが、想像以上に学生が授業に真面目に取り組んでいたことに感心した。

○概ね学生は皆、真面目に集中して講義に取り組んでいた。教科書中心であったが、先生の講義を聞きながらポイントと思われる箇所は、マーカーを引いたり、付箋を貼って、授業に真剣に取り組む姿勢が認められた。

○プリントに必要なこと、追加情報などを書き込んでおり、寝ていたり、聞いていない学生はいないように思われた。携帯電話を操作している学生がいたが、調べ物をしている様子だったので、特に問題はなかった。

○ほとんどの学生が前方に座って真面目に聞いており、大事と言われた項目について、配付資料にマーカーで線を引いていた。授業開始後に3名ほど学生が入ってきた。最後方の学生がちょっとスマホを触っていることもあったが、基本的に講義を聴いている様子だった。

○学生は私語などは特になく、板書を的確にノートに記載していた。ノートに書かせることで、居眠りの防止になるため、居眠りをしている学生はほとんど見受けなかった。やはり、私の講義も板書での講義を中心に行っていく必要があると考えられる。

○ほとんどの学生は前方に着席し、授業に集中していた様子でした。10名程度(5分の1程度?)の学生が後部に座り、そのうち2~3名はずっと携帯を触っていましたが、教科書に線を引いてなどと、指示があると、対応しているようでした。近頃は携帯やパッドを使って授業資料を見たり、書き込んだりする学生もいるため、携帯を見ているからと言って遊んでいるとは限らないと思われます。2人ほど途中で出て行きましたが、きちんと帰ってきました。始業から数分遅れて入ってきた学生が2名いましたが、途中で抜け出すような学生もなく、私語もほとんどなく、数名、頭が垂れたままの学生もいましたが、ほぼ全員が授業に真剣に取り組んでいました。

○出席していたほとんどの学生は、集中して先生の講義を熱心に聞いていた。スマートフォンで授業スライドを撮影している学生も数名いた。

○授業開始5分までに5名、12分に1名、合わせて6名が遅刻した。授業開始5分後に

3名退出した、内2名は数分で戻ってきたが、1名は戻ってこなかった。私語もなく静かな環境で、多くの学生が熱心にメモを取っていた。

○The students were spread out in the classroom and looked comfortable. They were on task by following in the textbook, plus using their phones to look up words or to check the e-portfolio where the supplement materials could be found. The students were listening, taking notes, highlighting, and following along in the lecture. I was intrigued that the students were paying attention throughout the lecture and not sleeping. I think having the textbook copied and projected on the screen is an important aid to help students follow along easily and to listen as they are reading along. I think I can use some of these techniques in my class with them next year.

○1限目のためか9時過ぎても入ってくる学生が10数名いました。しかし、9時5分ぐらいいまではほとんどの学生が着席し、受講していました。学生はテキストに線を引いたり、書き込みをしたりして講義を熱心に聞いていました。携帯を机に出している学生は多く見受けられましたが、操作をしている学生はほとんどいませんでした。

○厚生会館の講義室での授業でしたが、学生は前方10列目から一番後ろまでに万遍なく着席して大変静かに授業を受けていました。私語は全くありません。数名の学生がスマホを操作し1名はゲームをしていました。

○講義内で、計算問題を解く時間があるため、学生は居眠りなどすることなく、集中して講義に取り組んでいた。

○後方に座り参観させていただきましたが、学生たちは教科書にラインをひいたりノートを取ったり真面目な態度で受講していました。

○講義が始まったら私語を止めて、講義に集中していた。学生はテキストを見ながら、アンダーラインを引いたり、マーカーで印をつけたり、メモを書き込んだりしていた。4時間目であるにも係わらず居眠りをしている学生はいなかった。内職やスマホを操作している学生もいなかった。真面目に授業に取り組んでいた。

○学生は説明を聞いて、テキストに重要なポイントに赤線を引いたり、太字を書き入れたりしている。前から半分程度座席の学生は真剣に聞いているが、後部座席では5~6名スマホを出して見ている学生がいた。数名の画面をみたら授業の黒板で、パワーポイントの画面の字が小さくて明確に見えていないようである。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「4年」

○スライドも見やすく、声も明瞭で、配布資料も文字の大きさも適当であり、全体的に分かりやすい授業であった。国家試験にも適宜ふれ、理解を深める工夫がされていた。要点を説明するなど、学生が復習しやすい配慮がなされているように感じた。

○テキストはわかりやすく作成されていて、講義終了後もテキストを見れば復習できるようにまとめてあった。薬剤師になって外国人に應對する際に、実際に現場で遭遇するときに必要な医療英語を、一つの単語に接頭辞や接尾辞に分けることにより、多くの医学用語を要領よく理解できるように講義されており学生の理解力が向上したと思う。また、講義一辺倒にならぬよう、重要な単語については皆で発音し、参加型の講義という点では良かったと思う。私もこれまで、あまり発音に拘らずに内容を論文を読んでいたところがあり、今回の授業を聴いて自分の描いていた発音が間違っていた単語があったことに気づいた点が良かった。全体的に薬剤師が身に付けておくべき内容が豊富に盛り込まれており学生にとっても英語によるコミュニケーションが身近に感じたのではないかと思った。

○講義の内容が分かりやすかった。スライドの中の重要なポイントが一目でわかるところは自分の講義にも取り入れたいと思った。授業の最後に演習問題があり、学生自身が講義内容の理解度をチェックできるため良いと思った。

○特別な管理を要する薬物等に係る法規範という内容だった。そのため、薬剤師が管理する医薬品一覧や、どこにどのような届出が必要であるかを確認する内容多い。講義スライドの途中に、知識を確認するための問題が差し込んであり、講義にメリハリをつける工夫がされていた。講義内容を理解できているか、講義中に問題を解いて確認させていたところが良かった。

○教科書を中心に要点など重要項目にマークする形式で、パワーポイントは使われずに時々黒板に記載されてすすめられた。講義終了前にはその日の重要ポイントをまとめた記入式のプリントを配布され、講義の振り返りができるように配慮されていた。講義毎に復習ができる工夫がされていて、今後参考にさせていただく。

(2) 参観者から見た学生の様子「4年」

○配布資料に、授業内容を熱心に書き込んでいる様子が見られ、授業をよく聞いている姿勢が見受けられた。

○学生は熱心に聴講しており、先生と共に発音する際には真剣に発音していた。授業は情報演習室2であったので、学生は主にディスプレイを見て先生の講義を聴き、必要時にはテキストにメモ書きをしているようであった。学生も臨床英語は興味深かったのではないかと思われる。

○講義中に寝ている学生が少なかった。学生がよく集中して授業を受けている様子が印象的だった。講義中の重要なポイントを教科書で確認したり、メモをとるなど熱心な学生が多かった。

○学生はプリントに線を引いたりして授業に参加していた。遅刻者も数人いたが、教室に入るとすぐに他の学生の迷惑にならないように心がけていた。私語をしている学生も見られず、真面目に取り組んでいた。

○学生は教科書にアンダーラインをひいたりして、講義に参加していた。特に私語をしている学生も見られず、真面目に取り組んでいた。

教員による授業の自己評価報告

令和元年度

平成 31 年度(令和 1 年度) 教員による授業の自己評価について

教員の教育力向上を目的として行われてきた「学生による授業アンケート」「学生アンケートに対する教員コメント」の取り組みと合わせて、さらなる教員の教育力改善のため、専任教員を対象として「教員自身による授業の自己評価」を平成 26 年度より開始した。

平成 26 年度は「教員による自己評価」及び「次年度への計画」が記載項目として挙げられていたが、平成 27 年度は、「学生による授業評価に対するコメント」を追加した。これにより、授業に対する PDCA サイクル(授業(D)、自己評価及び学生評価(C)、次年度への計画(A/P))を 1 枚のシートで確認することができるようになった。平成 28 年度からは、自己評価の項目を①授業に対する自己評価、②学生による授業評価に対するコメント、③昨年の授業計画に対する自己評価、④次年度へ向けての改善計画の 4 項目とし、「③昨年の授業改善計画に対する自己評価」を追加した。これにより、昨年の自己評価による改善計画(P)、授業の実施(D)、授業の自己評価(C)、昨年の改善計画の自己評価(C)、次年度への改善(A/P)と、教員自身の授業に対する PDCA サイクルがさらに充実した。学生評価を加味することでさらに自己点検の際、学生の意見に対する振り返り効果も得られるものである。

平成 30 年度は、各教員に対して「教員による授業の自己評価」に関するアンケートを実施し、自己評価の有用性についての検証を行った。その結果、教員は昨年の自己評価に基づき、授業改善に努めていることが明らかとなった。また、前年度から継続して講義を担当している教員の全員が授業に対する改善を行ったと、自己評価していた。これらのアンケート結果は、「教員による授業の自己評価」が、教員の授業の改善に有用であることを示している。

本年度は、継続して「教員による授業の自己評価」を実施するとともに、平成 30 年度に実施した「教員による授業の自己評価」に関するアンケートをもとに、自己評価シートの改善を行った。また、令和 2 年度には看護学部が新設されるため、看護学部と共通のフォーマットを作成した。

平成 31 年度(令和 1 年度)の「教員による授業の自己評価」は、前期・後期終了後、学内サーバー(¥¥dysv10)の FD 委員会内フォルダーに教員個人が提出する方法で実施された。平成 31 年度は前期 52 件、後期 37 件について自己評価が提出され、非常勤講師、オムニバス形式の講義を除く全ての講義について自己評価が行われた。提出された教員による自己評価は、印刷物として図書館で、学生・教職員を問わず、誰でも自由に閲覧できるよう設置している。

参考

平成 30 年度 教員による授業の自己評価

担当者名		平成 30 年度	(前・後) 期 (1・2・3・4) Q
担当科目・ 授業回数	(回)	学年	() 年

1. 教員による授業評価

(1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ

(2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							/
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							/
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							/

2. 学生による授業評価に対するコメント

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

4. 次年度へ向けての改善計画

2019年度 教員による授業の自己評価

担当者名		2019年度	(前・後)期 (1・2・3・4)Q
担当科目・ 授業回数	()回	学年	()年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							/
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							/
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							/

2. 学生による授業評価に対するコメント

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

4. 次年度へ向けての改善計画

2020年度 教員による授業の自己評価

所属 担当者名	(薬・看護)	年 度	2020年度	前期・後期
担当科目・ 授業回数	学部 薬学部・看護学部	科目名	(回)	学 年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							/
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							/
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							/

2-1. 学生による授業評価に対するコメント

2-2. 教員による相互授業参観に対するコメント（ある場合のみ）

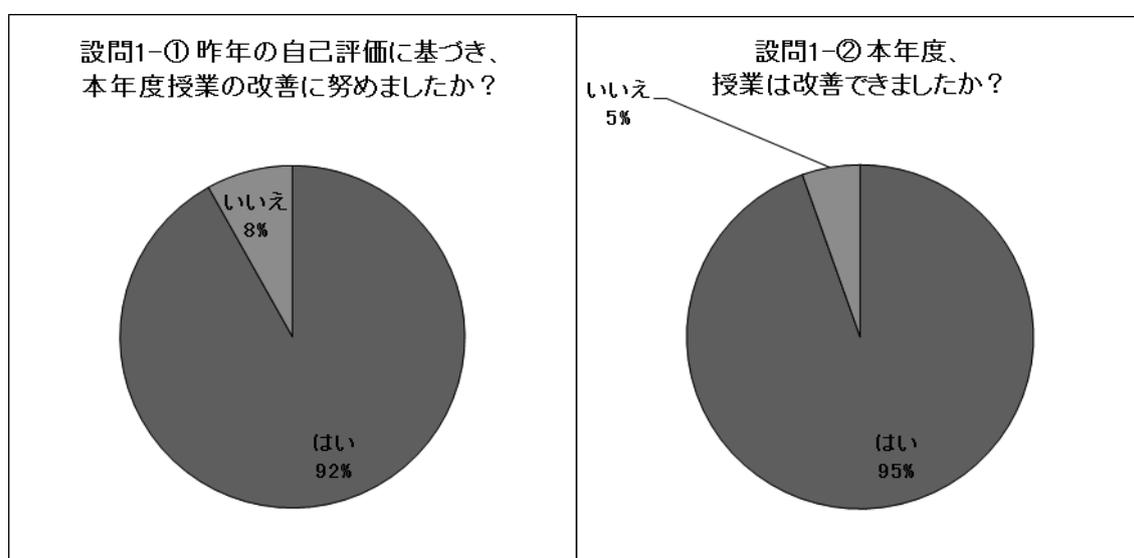
3. 昨年の改善計画に対する自己評価

4. 次年度へ向けての改善計画

「教員による授業の自己評価」に関するアンケート

「教員による授業の自己評価」が適切に実施され授業改善に対して有効であるかを検証するため、また次年度以降の自己評価シートの改善に向けたアンケートを実施した(回答数 37)。

自己評価の有効性に関する 2 つの設問については以下のような結果となった。1, 2 のいずれも「いいえ」と回答した教員は講義開講初年度が理由であり、昨年度から講義を行っている教員については全員が今年度改善に努め、その結果改善できたとの回答であった。



「教員による授業の自己評価」シートの改善点について自由記述コメントで次頁のような意見が出された。これらの意見を参考として、次年度の自己評価シートの形式について検討する。

自由記述 コメント

ひと通り授業を終えた後、自分が実施した内容や手順等を見つめ直す機会として、とても役立つ内容になっていると思われる。ただし、A組とB組が成績で分けられている場合には、同じシラバスでありながら成績下位クラスでは、上位クラスに説明したものから少し内容を削ってゆっくり説明するといった具合に、同じ内容で評価してよいかを迷うケースがあるため、その点を考慮したものとなれば、よりわかり易い自己評価になるとともに、その自己評価書を他者が見てもよりわかり易くなると思われる。

特にありません。一定の内容で5年間位は続けて行かなければ的確な検証が出来ないと思います。

学生アンケート結果を記載する欄を設けても良いのではないのでしょうか。

適切な項目が揃っており、特にありません。

成績クラス分けがある場合、クラス別の評価や改善計画が必要ではないのでしょうか。

教員相互の授業参観による授業に参加された教員からの評価に対するコメントも設けてみてはいかがでしょうか。

“⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節”について、補習の利用についても自己評価欄を設けてはいかがでしょうか？

“⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫”について、マーク方式や記述式問題の有用性についても自己評価欄を設けてはいかがでしょうか？

FD 講習会報告

令和元年度

第1回 FD・SD 合同研修会 報告書

日時：令和元年 6 月 22 日 13：30～15：30

場所：情報処理演習室 2

演者：西村貴好 先生（一般社団法人 日本ほめる達人協会 理事長）

演題：「魅力を上げ結果を引き出す！ほめ達講座」～あなたの周りにはダイヤの原石がいっぱい～

参加者：教員 52 名 事務職員 27 名

アンケート結果（回収： 教員 52/52 名 事務職員 21/27 名）

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 43 ② 役立った 28
③ あまり役立たなかった 0 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 2

2. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 11 ② 適切 60 ③ 短すぎる 0 無回答 2

(①,③を選択された方は、望ましい時間を書いてください： 時間)

- ・0.5～1 時間： 1 名 ・1 時間： 4 名 ・1.5 時間： 5 名

3. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

内容

- ・聞く技術
- ・ICT 教育
- ・精神的に不安のある学生に対する教員の接し方
- ・落ち込んだ時の、心の整え方など
- ・堅苦しくなく、スキル向上のための講演
- ・退屈させない講義の手法
- ・難しい内容の伝え方
- ・低偏差値の学生が国家試験にストレートで受かるための教育法
- ・ルーブリックに関する講習
- ・堀江貴文さんの講演
- ・このシリーズでまた第二回を企画するのもよいのでは？
- ・大学教員の情報の取り扱いについて
- ・ビジネスマナーについて “接遇など” (2 名)
- ・上手なスケジュール管理法
- ・仕事の優先順位のつけ方
- ・伝え方が 9 割【佐々木圭一氏】
- ・プロの職員組織とアドミニストレーター（行政管理者）のあり方

研修手法

- ・外部講師による研修会
- ・ワークショップ形式の研修

4. その他 FD 委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・教職員が気軽に意見交換できる機会を、委員会で提供してほしい
- ・研修会は勤務時間内に終了するよう計画してほしい
- ・はっきりとした開催の日時のアナウンスを早めに教えてほしい
- ・日程は、土曜日以外の平日が良い



西村 貴好

理事長・創設者

テーマ：全ジャンル担当

▶ 講師へのお問い合わせ

▶ ほめ達事務局へのお問い合わせ

メッセージ

「ほめ達！」の真髄をお伝えいたします。

プロフィール

一般社団法人 日本ほめる達人協会 理事長

「泣く子もほめる！」ほめる達人。ほめる効果を活用し、さまざまな企業の業績向上に貢献。

ほめる効果の科学的分析も積極的にすすめ理論構築もおこなっている。

「楽しいことしか伝わらない」をモットーに講演やセミナーは「あっという間」と好評。

満足度は常に98%以上、その登壇回数(は2018年で225回。一年間の延べ聴講者数は12,911名。

書籍

「繁盛店のほめる仕組み」(同文館出版)

「ほめる生き方」(マガジンハウス)

「心をひらくほめグセの魔法」(経済界)

「泣く子もほめる！ほめ達の魔法」(経済界)

「ほめる達人が教える 人に好かれる話し方41」(三笠書房)

「仕事も人間関係もうまくいく！人のほめ方 サクッとノート」(永岡書店)

「結果を引き出す 大人のほめ言葉」(同文館出版)

実績

株式会社ロツテリア 富士通株式会社 武田薬品工業株式会社

ミズノ株式会社 株式会社NTTぷらら 株式会社NTTデータ

積水化学工業株式会社 兵庫ヤクルト販売株式会社

サンマルクホールディングス 株式会社ダイエー トステム株式会社

関西電力株式会社滋賀支店 大阪ガス株式会社 新横浜国際ホテル

みずほ銀行 北陸銀行 京都銀行 三井住友信託銀行

プルデンシャル生命保険株式会社京阪支社 住友生命保険相互会社

大阪府 大阪市交通局 東京都交通局 東海旅客鉄道株式会社

三重県健康福祉部こども局こども未来室 大分県職員研修所

他多数(敬称略、順不同)

FD・SD合同研修

1 日時

令和元年6月22日(土)

1330~1530

2 場所

情報報処理演習室2

3 講師

一般社団法人 日本ほめる達人協会
理事長 西村貴好

第2回 FD 研修会 報告書

日 時： 令和元年9月3日 15:00~16:00

場 所： 情報処理演習室2

演 者： 原田 健一 先生 (名城大学 薬学部・教授, 名城大学大学院 総合学術研究科・教授)

演 題： 「初年次教育に関するささやかな提案」

参加者： 教員44名 (全60名)

アンケート結果 (回収： 教員42名)

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか?

- ① 非常に役立った 17 ② 役立った 21
③ あまり役立たなかった 2 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 2

2. 問1で③,④を選択された場合、理由をお聞かせください。

- ・名城大の方式を第一薬科で実施しても国家試験の合格率には繁栄しないと思う
- ・2から3年次の他の専門科目についての現状が知りたかった

2. 講演時間は適切でしたか?

- ① 長すぎる 0 ② 適切 42 ③ 短すぎる 0 無回答 2

3. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

- ・アダプティブ・ラーニング Adaptive Learning

(適応学習、一人ひとりの習熟度・理解度に応じて、問題の難易度や必要とする学習概念を最適化する学習方法)

4. その他 FD 委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

・講師の方のご都合もあるかと思いますが、できるだけ研修会の間隔をあけていただけたらと思います。今週のように週に2度は多いように感じます。

・9月に入ると学会であるとか、後期準備の必要があり FD として全員の酸化を求めることは難しいと考える。更に、今年を鑑みても2件のFD研修会およびハラスメント防止研修会1件が立て続けにあり、もう少しスパンを置いて実施した方が通常業務に与える影響が少ない。加えて再試終了後の8月後半にも実施するのが望ましい。

【ご講演にあたって】

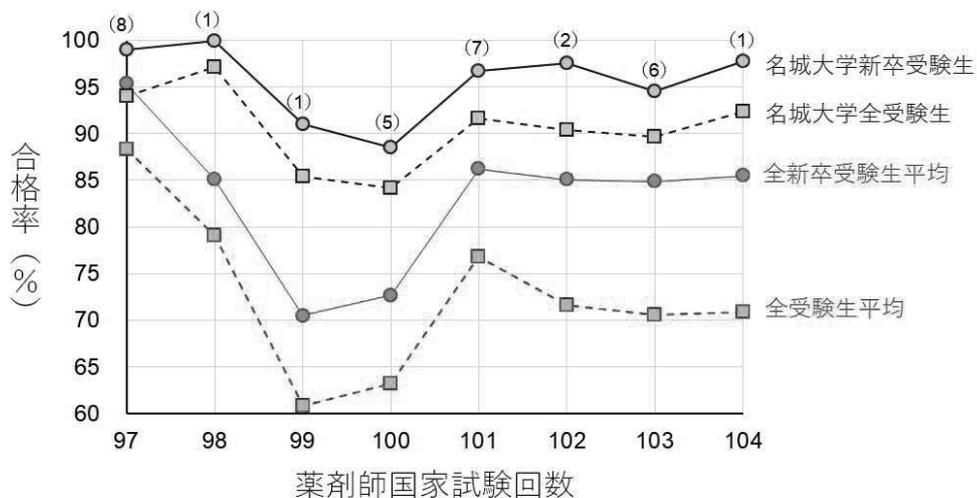
FD 委員会では、本学における教育活動の改善への取組みの一環として、「教員の教え方改革」をテーマに、今回の第 2 回 FD 研修会を企画いたしました。

本学における重要な課題の一つは、「負のスパイラルからの脱却」です。すなわち、「国家試験合格率の高い大学になる → 学生が集まる → 競争倍率が上がる → 優秀な学生を選抜できる → 卒業率が上がる□」のように、いかに正のスパイラルに転換するか、そして「全学生がストレートで進級し国家試験に合格する」というマイルストーンに、いかに近づけるか、と考えます。

直近の第 104 回薬剤師国家試験において合格率私学第 1 位は、名城大学です。近年常に上位に位置し、高い合格率を維持しています（下図）。特記すべきは、出願者（233 名）、すなわち 6 年生のほとんど（223 名）が受験して、合格率 97.8%を得ていることです。しかし、その名城大学も一時期、合格率が下降し、低迷していた時期がありました。

今回ご講演をお願いしました原田健一先生は、この低迷期に教務委員長ならびに国試対策委員長を任せられ、陣頭指揮を執って教育改革に尽力され、これを見事に V 字回復に導かれました。そして、現在に至る「正のスパイラル」の達成と維持に大きく貢献されました。原田先生曰く、普段の講義がとても重要で、学生のためにいかにわかりやすく教えることができるか。そのために日々改良を重ね、第三者的な指導を受けながら、全教員一丸となって教え方改革に取り組んだ、ということです。

ご講演では、名城大学における確かな成功実績に基づいて、どのように「教員の教え方改革」に臨み、V 字回復、正のスパイラルへの転換を果たされたのか、その取り組みについてご紹介していただく予定です。



() 内の数字は私学56校中の順位

講師のご紹介

原田 健一 先生 (1948 年生まれ)

名城大学 薬学部 環境科学・教授

名城大学 大学院 総合学術研究科 資源生物機能学・教授



【ご略歴】

原田健一先生は、千葉大学薬学部のご出身で、同大学修士課程を修了後、田辺製薬(株)発酵化学研究所に入社。その後、名城大学薬学部助手として就任され、東北大学薬学部にて学位を取得後、イリノイ大学やヘルシンキ大学で留学され、講師、助教授を経て、現職である名城大学薬学部の教授、ならびに名城大学大学院総合学術研究科の教授を務められています。またこの間、東京医科歯科大学、明治大学、山梨大学にて非常勤講師も務められています。

【大学における管理運営】

薬学部 教務委員長	(2003 年度～2006 年度)
薬学部 国試対策委員長	(2004 年度～2006 年度)
薬学部 入試委員長	(2009 年度～2010 年度)
大学院 総合学術研究科長	(2011 年度～2014 年度)
分析センター長	(2015 年度～2017 年度)
学術研究支援センター長	(2015 年度～2018 年度)

【研究活動】

天然物化学、質量分析学、分離科学、環境科学をご専門として、これまでに発表された原著論文は 300 報を数えます。現在、これら分野の横断的・複合的な学問分野である化学生態学の研究領域において、生態系における物質と生物間のコミュニケーションの解明を目指されています。

【学会賞】

日本質量分析学会 奨励賞	(1985 年度)
日本薬学会学術 貢献賞	(2004 年度)
日本質量分析学会 功労賞	(2017 年度)

「初年次教育」に関する ささやかな提案

名城大学薬学部
原田 健一

「初年次教育」に関するささやかな提案 —アウトライン—

1. 名城大学薬学部の薬剤師国家試験対策の経緯
2. 最近の国試結果と問題点の提起
3. 初年次教育
4. 名城大学薬学部教養教育基軸科目
「人間と環境」の紹介
5. 初年次教育に関する私案
基本ポリシー
実施方法

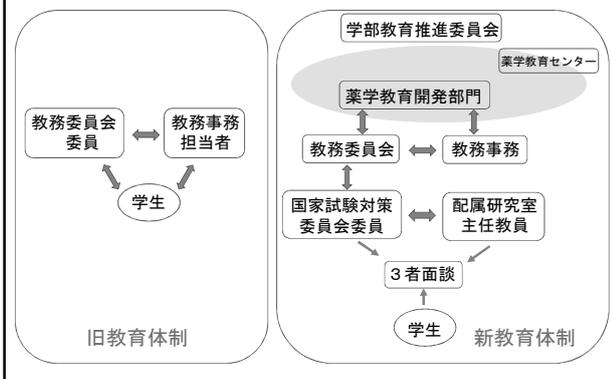
84～93回（1998-2007年）における薬剤師 国家試験結果（名城大学薬学部）

回	受験者数	合格者数	本学合格率 (%)	私学合格率 (%)	私立29大学中 本学順位
84	300	261	87	87.09	19
85	280	245	87.5	89.28	21
86	267	215	80.52	84.79	24
87	236	214	90.68	89.12	12
88	255	215	84.31	89.17	22
89	279	227	81.36	86.77	25
90	243	236	97.12	94.2	10
91	263	239	90.87	86.26	7
92	214	202	94.39	86.54	5
93	244	233	95.49	86.74	4

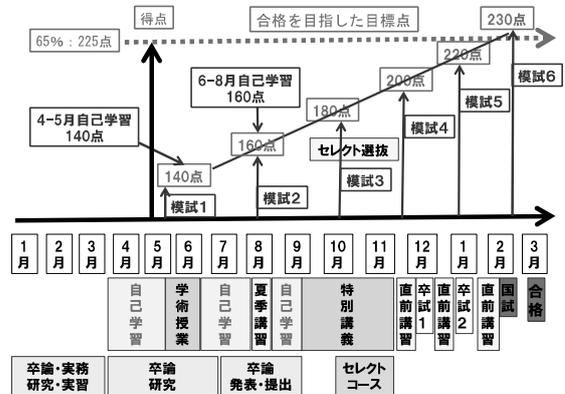
21世紀初頭における名城大学薬学部の取り組み

1. マネジメント
 - ① 目標設定
 - ② 体制
 - ③ 教員の意識改革
2. 教育内容（何を教えるか）
3. 教育方法（どのように教えるか）
 - ① 新しい授業形式の導入
 - ② 進級基準の見直し
 - ③ 教育指導上の工夫
 - ④ データの蓄積と活用
4. その他
 - ① 後援会からの支援
 - ② 予備校の活用

薬剤師国家試験対策のために確立した教育体制

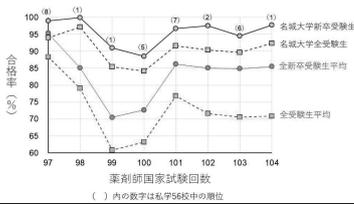


薬剤師国家試験対策スケジュール（名城大学薬学部）



97～104回（2011～2018年）における薬剤師
国家試験結果（名城大学薬学部）

年	回	受験者数	合格者数	合格率 (%)	私学平均合格率 (%)	本学順位 私立56大学 中順位	本学順位 全73大学 中順位
2011	97回	198	196	98.99	95.38	8	11
2012	98回	199	199	100	83.05	1	1
2013	99回	224	204	91.07	69.52	1	3
2014	100回	236	209	88.56	71.65	5	9
2015	101回	216	209	96.76	85.72	7	10
2016	102回	208	203	97.6	84.33	2	6
2017	103回	184	174	94.57	84.11	6	16
2018	104回	223	218	97.76	84.77	1	3



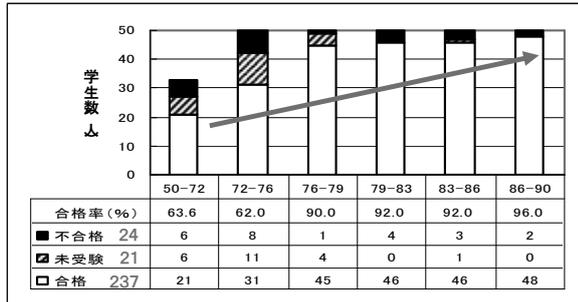
良好な結果から見えてきた課題

平成16年および17年度では、組織的な教務・国試対策を行い、ある程度の成績を納めることができました。しかしながら、これらの対策を行ったにもかかわらず、解決されなければならない問題も浮き彫りになったことも事実です。平成17年度では、4年生に進級した学生のうち、国試を受験できなかった学生20名、また受験したが合格しなかった学生24名も出てしまいました。例年、同じような表現になりますが、国試対策は4年生だけでは困難で、むしろ下級学年で学ぶ基礎的な事柄の理解がいかに大切であることを示しております。勉学を続けるモチベーションの高揚を目指す。

(2006年の教務委員会報告)

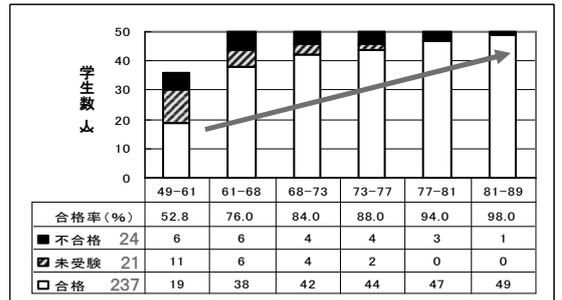
1年次の学業成績と国家試験合否結果の関係

合格率	64%	62%	90%	92%	92%	96%
成績順位	285-251	250-201	200-151	150-101	100-51	50-1



2年次の学業成績と国家試験合否結果の関係

合格率	53%	76%	84%	88%	94%	98%
成績順位	285-251	250-201	200-151	150-101	100-51	50-1



成績順位と国試合否は相関する

1年次～2年次で、「基盤学力」を身につける

「教わる」から脱皮し、「主体的に学ぶ」習慣を身につける

「暗記」でなく、「理論」を理解する学力を身につける

学生同士で学び合う、調べ合う

教え合う姿勢を身につける

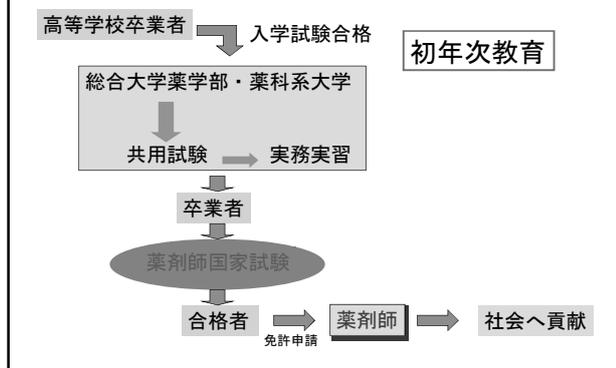
国試合格は1年次の学習で決まる！

初年次教育

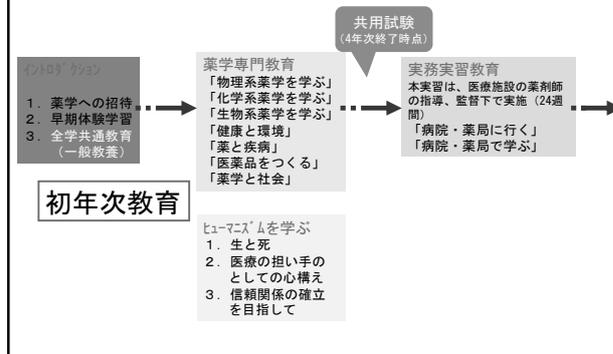
初年次教育は1970年代後半から80年代前半にかけて、アメリカの多くの高等教育機関で導入され、学生の中退率抑制や学生の”成功”に有効な教育プログラムであることが評価され、現在では世界20カ国以上に広がっています。その背景として、高等教育のユニバーサル化の進行に伴い、多様な学生が高等教育に進学するようになる一方で、卒業時の質保証が求められるようになり、入学した学生を大学教育に適応させ、中退などの挫折を防ぎ、成功に水路づける上で初年次教育が効果的であるという期待や評価が高まっているからです。

(初年次教育学会 設立趣意書 第一段落)2007年12月

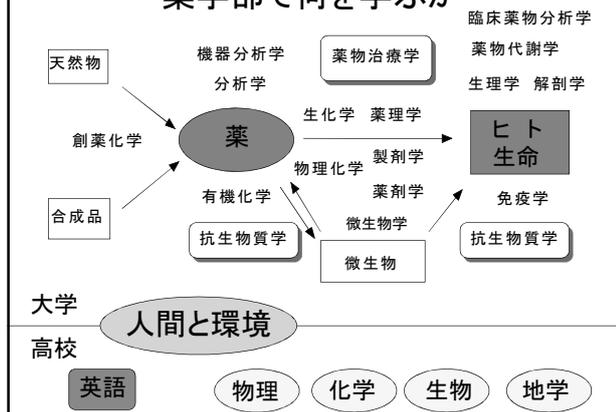
薬剤師への道



薬学部6年間の流れ(1)



薬学部で何を学ぶか



名城大学薬学部教養教育基軸科目「人間と環境」

担当者氏名 原田健一(環境科学研究室)

講義の目的:

高校で習得した理科を発展する形で化学、物理そして生物の基礎的な考え方を習い、人間と環境に関するいろいろな問題に対して理解を深める。

教科書: 改訂実感する化学 上巻 地球感動編
改訂実感する化学 下巻 生活感動編

ポイント: 身の回りで起きていることを自分の頭で考える
(論理的思考ができること)
シラバスをしっかりと読むこと

講義の進め方

- ◎ 8名で1グループを作る
発表者は担当教員が指示
- ◎ 前週に簡単な予告を行う
- ◎ 1週目: 担当教員による問題提起(30分)
その後各グループで討論して方針を決める
- ◎ 2週目: 発表準備(10分)
発表(各テーマにつき2グループ、10分)
発表後20分の質問
担当教員の総括(10分)
- ◎ 8回目の講義で中間のまとめを行う
- ◎ 15回目は最終まとめ
- ◎ 発表はもちろん質問することも評価の対象



第1回のテーマ

4月12日 元素(物質)の形成と地球の誕生

4月19日 発表および議論

元素(物質)の形成

宇宙の誕生

元素はどのように作られたか

超新星爆発と核融合反応

原子とは(上巻、35ページ、下巻、13ページ)

周期表(上巻、34ページ)

第1回のテーマ

4月12日 元素(物質)の形成と地球の誕生

4月19日 発表および議論

地球の誕生

地球はいかに誕生したか

地球46億年の歴史

現在の地球環境を考える際に重要な出来事

大気の形成、海の誕生、酸素の発生、

生命の誕生、超大陸

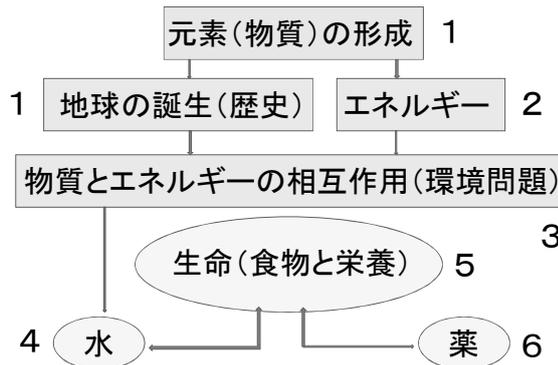




人間と環境—講義計画

- 1) 4月05日 インTRODクシヨ—科学的な考え方—
- 2) 4月12日 元素(物質)の形成と地球の誕生
- 3) 4月19日 議論および発表
- 4) 4月26日 エネルギー(太陽エネルギーと化石燃料、原子力)
- 5) 5月10日 議論および発表
- 6) 5月17日 地球温暖化とオゾン層破壊
- 7) 5月24日 議論および発表
- 8) 5月31日 中間まとめ
- 9) 6月07日 水を考える—その不思議な性質—
- 10) 6月14日 議論および発表
- 11) 6月21日 生命—栄養を考える—
- 12) 6月28日 議論および発表
- 13) 7月05日 薬—アスピリンとペニシリン—
- 14) 7月12日 議論および発表
- 15) 7月19日 総まとめ—環境と生命における恒常性—

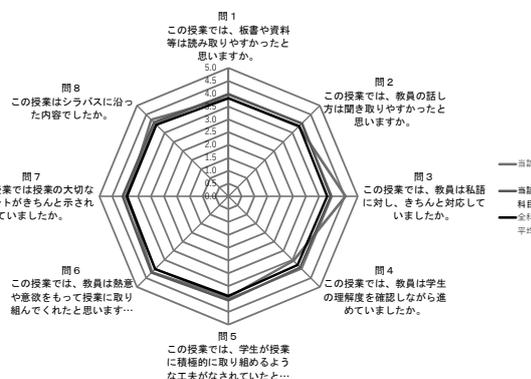
「人間と環境」の討論テーマ



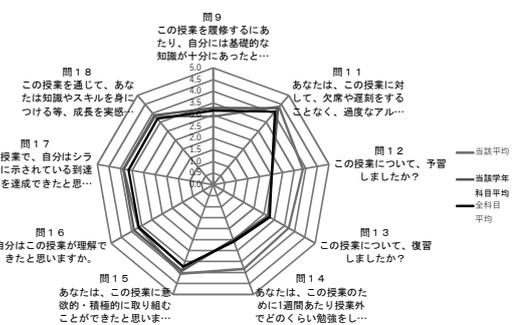
レポート提出

- 4月12日 元素(物質)の形成地球の誕生
4月19日 議論および発表
↓
レポート作成—1—
↓
4月26日 エネルギー(太陽エネルギーと化石燃料、原子力)
レポート—1—提出(1部/一人)
5月10日 議論および発表
↓
レポート作成—2—/
↓
5月17日 地球温暖化とオゾン層破壊
レポート—2—提出(1部/一人)
5月24日 議論および発表
以下同様

担当教員の授業スキル



学生自己評価



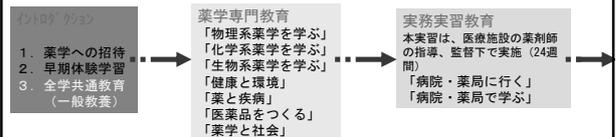
「人間と環境」 学生の主な感想

- 1) 極めてありふれた身近な話題をテーマにしているので、いままでいかに無頓着であったかを実感した
- 2) グループ学習の楽しさと難しさを実感した
- 3) プレゼンテーションの大切さを感じた
- 4) 学生が発表し、学生が質問する。いままで経験したことがないやり方だ
- 5) レポートを初めて書く機会になった
- 6) 高校で習った理科の科目にこだわらず、学習ができた
- 7) ネットや参考書を探すのが大変だ
- 8) このような学習が薬学部学生に必要なのですか
- 9) 高校の時の勉強とあまりに違うので戸惑った
- 10) コンピューターの扱いができるようになった

初年次教育に関する私案（1）

基本ポリシー

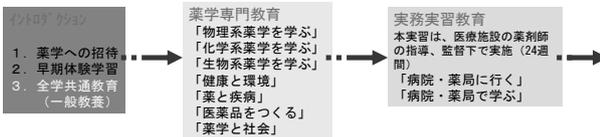
1. 「教えを受ける」→「自ら学ぶ」（自分の頭で考える）
「学生の意識改革」← 教授錯覚を自覚する
2. 感じさせる（刺激をどのように与えるか）
3. 流れを作る（論理的思考、まとめる力）
4. いかに、アウトプットするか



初年次教育に関する私案（2）

どのようにやるか？

1. 従来の「座学」をやめる
2. グループ学習
3. PowerPointの作成
4. プレゼンテーション、質疑・討論
5. レポートを書かせる（心の変化の追跡）



化学, 72, No. 10, 11 (2017)

カガクへの視点

学生の意識改革を促す

大学初年次からの学術体験

増田 建

大 学における学びとは何であろうか？ 大学における学問とは、既存の知識を継承していくことだけでなく、新たな知を創造していくことであろう。はたして、このような意識で大学に入学してくる学生はどれほどいるのだろうか？

理系における学びは積み上げ式と呼ばれる。最初は基礎的な部分から積み上げ、徐々に専門性を高めながら自分の専門分野を極めていく。そして正解のない問いを発見し、解決していくこと。すなわち「研究」に取り組むことになる。

までの「教え授ける」から「自ら学ぶ」に変革することにある。その詳細については、今年の3月に発行した「科学の技法—東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト—(東京大学出版会)にまとめたので、ご覧いただければ幸いである。

この授業では、各教員は自らの専門性に惹きつけて授業を展開し、学生は授業のなかで先端的な学術研究を体験する。この学術体験を通して、科学を考えるうえでの実践的な技法を身につけていく。授業のなかで課される正解のない問いに対して、その解決法を見出すために、友人たちと議論しながら自発的に学習していくことが求められているのである。

授業設計の視座では、「基礎知識のない学生に先端的な学術研究を考えさせるのは無理ではないか？」との意見もあったが、自らが足らざることを知ることこそが学びの変革につながるかと考え、上記のような授業形式とした。授業開講から3年目を迎えた現在、ほとんどの学生は、大学らしい、議論できる数少ない授業として楽しんでいるように見える。また、いかに難関大学を合格したといえども、研究を行っているうえでまだまだ足りないことを実感して



大切なことは
**学会発表ってどうやったら
 うまくできるんですか？**
 質問をやめないことだ!

Ans. 聴衆を圧倒しよう!
 私は、あまり知らない人1対1で話すよりも、知らない100人の前で話すことが気が楽なので、どちらかというと学会発表は楽しくやっています。とはいえ、研究始めたばかりの学生さんにとっては、ネタがないと発表しづらい管理職たちに自分の研究発表の真意を伝わるのは、大変なことです。聞き手がいないかと思ってしまうので、発表の準備から始めることにしました。

まず、発表のためのスライドづくりから始めることになる。指導教官たちと相談して、研究のバックグラウンドや方法、ハイライトされる結果、結論を簡潔にまとめること。個人別には、1分半程度のスライドでいいかと思う。スライドはいいことである。論文が見えないことである。論文などの類よりは、字のフォント

やレポートのような美しい長い文章はつくりにくい方がいい。むしろ短い文章の連続を心がけた方がいい。個人たちの演説で、皆の心に響くのは、短く簡潔な文章である。学会発表は文章を読むのではなく、演説をするのである。なので、前置きでわかりやすい演説の構成が重要。ただし、パリエーションはつける方がいい。「この話は〇〇の結果です」と毎回言うのではなく、「〇〇の結果を示しているのが右の図です」というような感じで、時々パターンを変えたりとおおよい。初心者を自覚するならば、原稿を覚えよう。ただし、丸暗記したものを完璧に言い切るような気持ちではない方がいい。なるべく自然な調子になるように、何を話すかという順番を整理するのである。これを基に心の整理と運動させて、覚えよければ安心である。文章を覚えても、言うのをスライドを見

て、どうせ、はじめの学会発表など10分か20分ぐらいのものである。そのぐらいの時間ならば守りに入ることなく臨機応変に攻める気持ちで臨んでいいと思う。聴衆を圧倒しよう。たぶん最も緊張するのは、質疑応答の時間である。質問する人は聴衆の深い専門家であることが多い。どちらかというと積極的な姿勢で質問を投げかけ、それに対してアドリブで答える必要がある。これは難しい。ただ、これはだれにとっても難しいことなので、失敗するというのを気にしなくていい。そんな短時間の意見交換なので話が噛み合わないことはあって当然なのである。自分の発表の質疑応答を聞いていけばわかると思うが、はじめはかみ合わない意見も意見と受け取っていくうちに意見の差が埋まってくる。そういうものは、相手に気を遣ってあげるあまり、自分の研究内容をネタが尽きたと勝手に思ってしまうことである。相手は聴衆に聞いて聞かされたことを知っていることは多い。それらに比べて自分の発表を聞いてきていない。あくまでもその研究の第一人者は発表しているあなたである。発表がうまくないと思ったり、



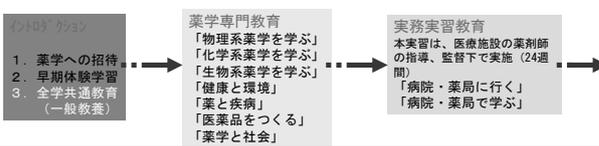
「人間と環境」興味深い学生の感想

最初にこの授業を受けたときは、この授業は何のためにやるのか全く分からなかった。授業の名前に不思議さを感じたことを覚えている。しかし、この一連の授業を受けて、他の授業とは違う視点を得られたと思う。世界の全体像を学ぶことをできたと思う。この世の中のものには目に見えない元素でできていて、地球も元素や様々なエネルギーから生まれた。目に見えないものたちの反応により、私たちが脅かす地球温暖化やオゾン層破壊が起きている。そのような環境で生きている私達、生命には水という物質と栄養が欠かせず、それらを使ってさまざまな働きが行われて日々生活することが出来る。ときにはその働きがうまく働かず、これら私達に密接に関わっていく薬という物質に頼ることで働きを正常化する。学んでいくうちにいろいろ繋がって楽しかった。主体的に学ぶことができ理解が深まったと思う。発表する、解りやすいパワーポイントを作る、班の皆で協力するなど、様々なスキルを学べたと思う。他の班の発表からは自分たちが調べられなかったことが得られ、まとめ方が違うことから、自分とは違う視点が得られた。その後、自分でもう一度習ったことをまとめなおすことで、知識の再確認ができ、毎週大変だったが、とても良い経験をしたと思う。この授業で得たことをこれからの授業、生活に活かしていきたい。

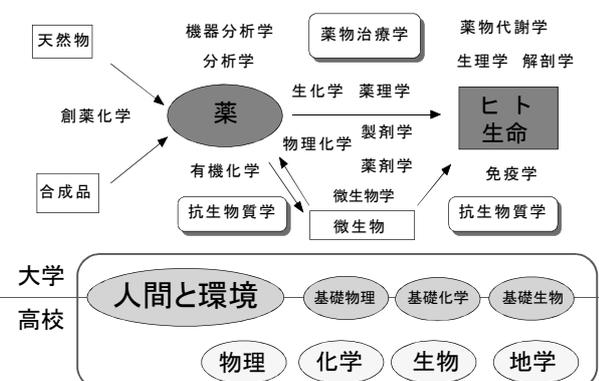
初年次教育に関する私案

基本ポリシー

1. 「教える授ける」→「自ら学ぶ」（自分の頭で考える）
 「学生の意識改革」→教授錯覚を自覚する
2. 感じさせる（刺激をどのように与えるか）
3. 流れを作る（論理的思考、まとめ力）
4. いかにか、アウトプットするか



薬学部における初年次教育



週刊朝日

第3回 FD・学生委員会 合同研修会 報告書

日時：令和元年9月6日 13:00～14:10

場所：情報処理演習室2

演者：中村真美 先生（臨床心理士・言語聴覚士）

演題：「相談が難しい学生へのかかわり」～コミュニケーションと気持ちに視点を向けて～

参加者：教員49名 事務職員2名 合計51名

アンケート結果（回収： 教員41/49名 事務職員0/2名）

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 14 ② 役立った 24
③ あまり役立たなかった 2 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 1

（対象学生が医療系ではないと感じた、担任学生がいない）

2. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 0 ② 適切 40 ③ 短すぎる 0 無回答 1

（①、③を選択された方は、望ましい時間を書いてください： 時間）

- ・0.5～1時間： 0名 ・1時間： 0名 ・1.5時間： 0名

3. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

特になし（2回目と3回目の研修会が近かったため特に意見がでなかったと思われる）

4. その他 FD 委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・このような内容の研修会は定期的実施して欲しい

相談が難しい学生への関わり

～コミュニケーションと気持ちに視点を向けて～

臨床心理士・言語聴覚士

中村 真美

～さまざまな現場(医療、教育、福祉、保健)を通して～

良好なコミュニケーションとこころの健康度の密接な関係

コミュニケーションにおける気持ちの理解と表現

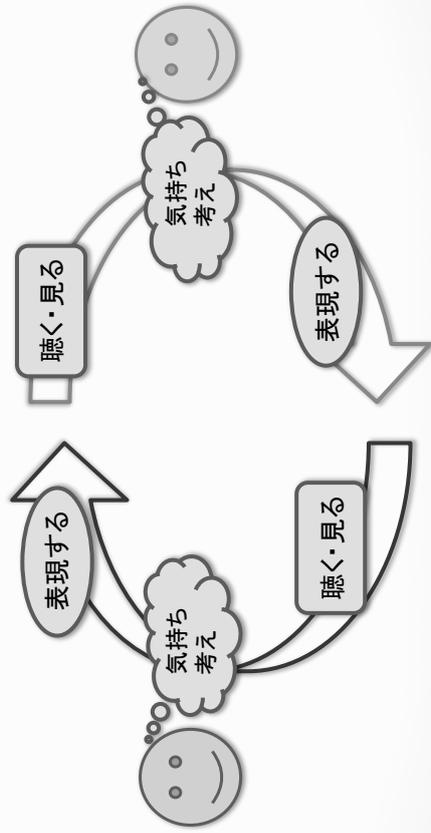
コミュニケーション

- 自分の思いや考えを伝える手段
- 本来双方向で、互いの感じ方や考え方を尊重して成り立つ
～自分の「わかる」という基準を押しつけるのではなく
お互いのわからなさを認めてあう
- コミュニケーションがうまくいかないと、人の中にいて不安や緊張が強くなり、孤独や疎外感を感じる

気持ち：感情

- 矛盾する感情を同時に持つことがある
～「好きだけど嫌い」といった相反する気持ち
- 気づきたくない、認めたくない、人に知られたくない感情は
誰にでもある
～不安や怒り、嫉妬、落ち込みなどネガティブな気持ち
～ネガティブな感情は気付かない感じないようにしようと
抑え込むと、時に爆発する

人と人のやりとり

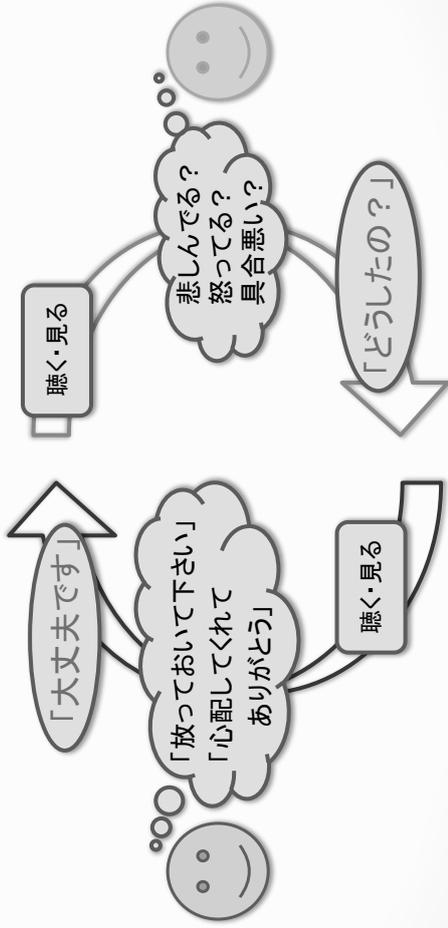


* 言葉や態度は正確には伝わらないこともある。

相手が伝えたいことを理解するために

- 先入観をもたず、相手の思いをそのまま聴く
- 自分の話したいことや関心のあることを優先しない
相手は「この人の聞きたいことに答えよう」と話したいことを話さなくなる
- わかりようとして伝える
「聞いている」というサインを出す
視線・表情・うなづきや相槌・言葉で
- 「正しい・正しくない」の評価をしない

「大丈夫」に込められた気持ちは？



* 相手にどう伝わるかはさまざま

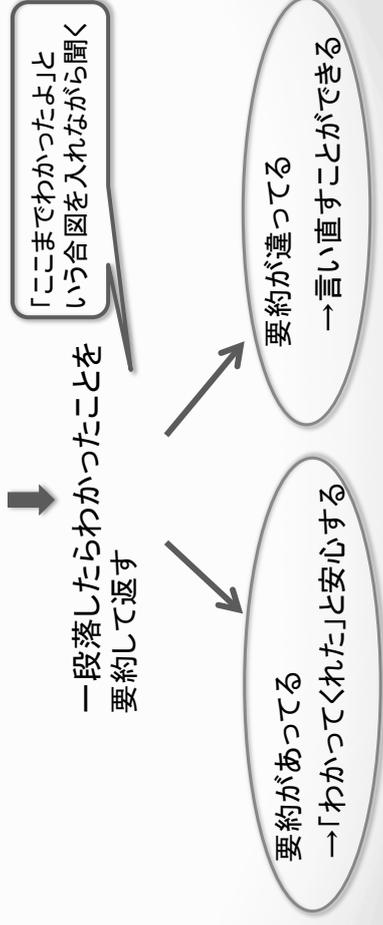
→ 自分の「つもり」と相手の「受け取り」にギャップはある
受け取り方で180度違うことがある

相手が伝えたいことを理解するために

- 相手の気持ちを理解(推測)してから、自分の気持ちを話す
～「大変だったね」「残念だったね」「きつかったね」など
* その際間違ってる可能性をわかりながら
- 「なぜ」「どうして」は使わない
「なぜ。。。なの？」は非難や叱責のニュアンスを含んでる
→「何か理由があった？」「何をしようと思ったの？」
「もう少し詳しく話してもらえないかな？」
- アドバイスや指導は一時棚上げ(まだ受け入れる余裕がないかも)
* 「大したことはないよ。大丈夫」と気軽に言わない

うまく話せない人の話を聴く

しばらく相手の話を聴く



「ここまでわかったよ」という合図を入れながら聞く

～人とのやりとりにおいて～

- 相手の心の中で何がおこるかは相手の自由
- 伝えたいことを全て表現することはできない
～表現には限界がある
- 同じ言葉を使ってもそれまでの生活歴や価値観がちがうので
“すれちがい”がある
- ～自分なりの見方や感じ方でとらえる

- ◆ 人とのやりとりで誤解やズレがあるのは当たり前
- ◆ 相手を理解するために気持ちに余裕に余裕が必要

他の学生たちと同じようだが

- ・ どこで困ってるかよくわからない
- ・ 指摘されてもなかなか改善されない
- ・ 問題が一時的でなく繰り返し持続する
- ・ 状況に応じて自分で考えて行動できない
- ・ 懸命取り組みが成果があらがらない
- ・ 話がどこか飛躍してて極端すぎる

どうも何か違う。。。

- ◆ 大学生が当たり前に行きたり、気づいたりすることが
なかなかうまく出来ない

発達障害とは

- 脳の認知機能に偏り(凸凹)がある
(コミュニケーション・社会性・想像力・学習・注意力)
- 年齢と共に症状は変化するが、大人になっても本質的な
特性は持ち続ける
- 環境要因が成長・発達に影響を与える
～生活上の困難は個人特性と環境との相互作用

発達障害は定型発達と連続している



杉山登志郎「発達障害のいま」2012

特性は強まったり弱まったり変化

- 場によって異なる(学校、家庭、相談室など)
～連携がうまくできないことも
 - 人によって異なる(相手の態度や言葉かけや受け取り方)
 - 時によって異なる
新しい場面や状況 vs 慣れた場面や状況
- * 環境により、発達障害らしくなったりしなくなったり
* 複数の情報の照合が重要！

- ・コミュニケーションが苦手
- ・社会性が乏しい(周囲にあわせられない)
- ・想像力が弱い(応用や変更が苦手)

ASD(自閉スペクトラム症)

アスペルガー症候群
高機能自閉症
広汎性発達障害

ADHD

(注意欠如多動症)

SLD(限局性学習症)

- ・特定の教科や課題が極端に苦手(読む、書く、計算)

- ・注意力散漫で忘れ物やミスが多い
- ・行動も発言もよく考えずにしてしまう
- ・落ち着きがない

発達障害グレーゾーン

- 発達障害の傾向はあるが診断がつくほどではない
- 違和感を持ちながらも、本人も気付かず何とか頑張って乗り越えてきたため、周囲は困ることや問題に気付きにくい
- コミュニケーションがとれてるように見えるが、実はかなり無理をしてたり、努力している
- ストレスがかかるとつや不安障害など精神症状、頭痛・腹痛などの身体症状が現れることも

思春期・青年期は

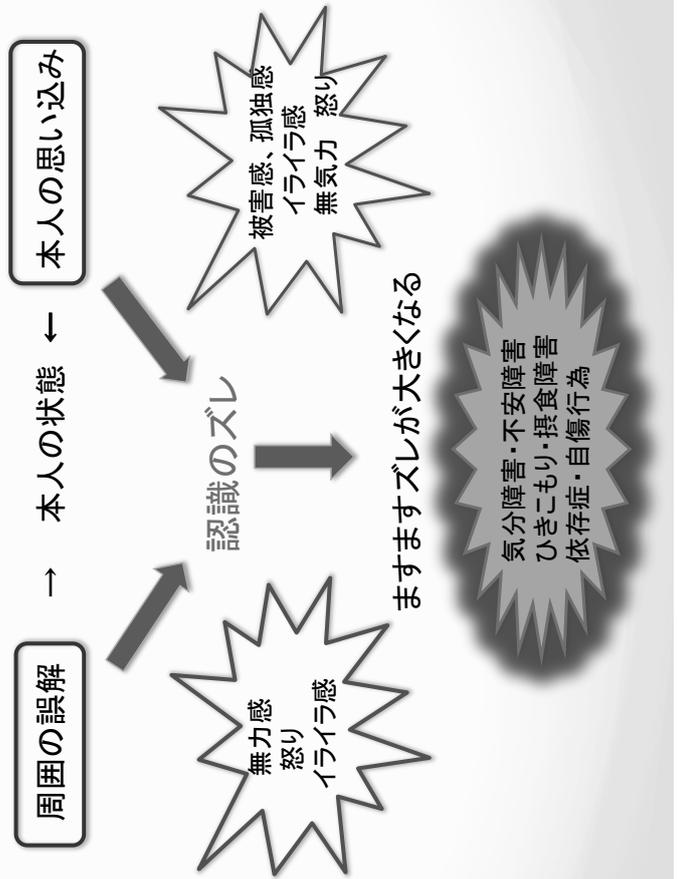
- ある程度行動をコントロールできるようになり、それなりに振舞えるので周囲は問題を見過ごす。
- 不適切な対応や環境が積み重なり、問題が解決されないままストレスが蓄積。自尊心の低下や被害感情が増幅。
- ささまざまな二次障害(身体症状・精神症状)が出現すると、本来の発達障害が隠れて見えにくい。

彼らの気持ち

- ちょっとしたことでもどうしていいかわからない
- 人に言ってもどうせわかってもらえない
- いつも“やれてないのでは”と不安
- まわりはちゃんとやれてるように見える
- 自分だけわからなくて恥ずかしい
- 完璧にやらなければいけないプレッシャー
- “こんなことに悩む自分はおかしい”という不安
- 何とか頑張ってカモフラージュしなくては、でもくたびれる

“できるふり・わかったふりをしておこう”

ではどのように関わる？



～具体的に①～

「気づく」

- 授業や実習でさまざまなトラブル
- さまざまな学習面の問題
- 事務窓口での問題
- 就職活動での困難
- 頻らな体調不良の訴え(身体・精神症状)
- 遅刻・欠席が多い

もしかすると…

- * 悩みのポイントがいつまでもつかめない
- * 物事の重要性や優先順位にズレを感じる
- * 状態が急に変わりやすいが、その理由がよくわからない
- * 学年が上がっても同じようなトラブルが繰り返される

～具体的に②～

「声をかける」

相談すること自体を支援する

NG “困ったことがあつたら相談しなさい”

～なぜなら～

- 「何とかなるかな」と思ってる
- 状況や気持ちをうまく説明できない
- 自分の性格のせいだと考え一人で頑張ろうとする。
- 「相談してもムダ」: 相談してうまくいったことがない

○ 具体的な声かけ

(雑談からでも、関心を共有することが第一歩)

趣味的なもの・日常的なこと

～具体的に③～

「ていねいに聴く」

- 何がうまくいかないのか、何に困ってるかをきく
- 困ってることを列挙させたり、例をあげて選択してもらう
- 自分が理解したことを相手に伝えて確認する
- 物事の捉え方が断片的で、話が細部になりやすいので、テーマや事実関係を書きながらきく
- 考えを整理したり優先順位をつける手伝いをする

わかってもらえた話を聴いてくれた

安心感

相談意欲

～具体的に④～

なぜなら

言葉通りに取らないように！

- ・ 状況理解、全体理解が苦手なズレがある
- ・ 相手にわかるように説明するが苦手
- ・ 限られた語彙の中から、極端な表現を使う

ほんの少し想像してみる

話したことをこんな風にとってるのかな？
もしかすると昨日のあの話とつながってるのかな？

そして

- 自分の理解したことを相手に伝えて確かめる
「あなたの話をこのように理解したけど
どのくらい当たってますか？」
- 自分の話したことを、どの程度理解してるか確かめる
「私が話した中で、大事と思うことは？」

正確なコミュニケーションの積み重ね

互いにわかりあう信頼関係

どのように話す？

- あっさり、はっきり、簡潔に
 - くどくならない、問い詰めない
 - ほめる時はすぐに、注意は短く具体的に
 - あいまいな表現や態度はとらない
 - できるだけポジティブに
- * 一生懸命頑張ってるところに気づき褒める

困ることだけでなく良い面にも目を向けよう！

しかし、周囲が支援をしようとしても

本人に自己理解がないと。。。

“特に困ることはない”

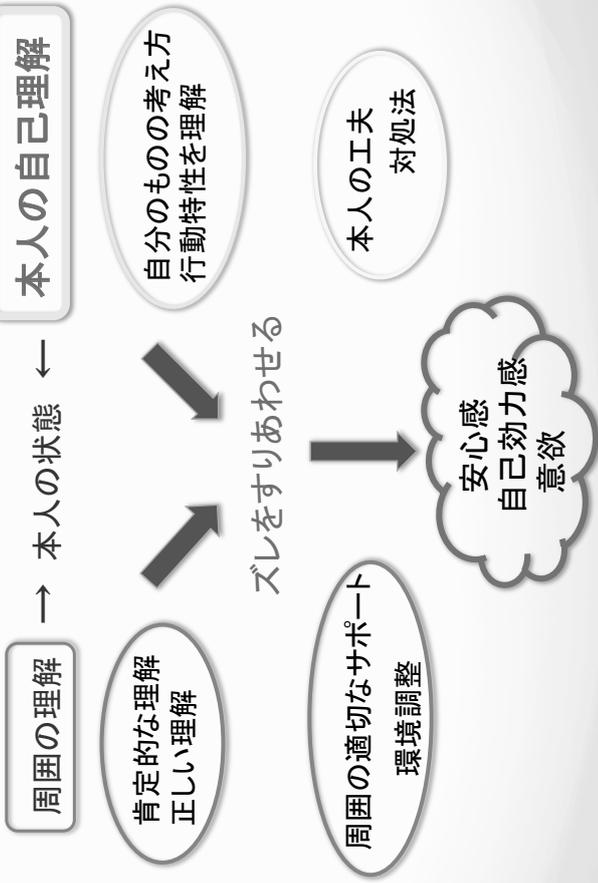
“他の人と同じようにやれてるはずだけど。。。”

“もう少し頑張れば何とかなる”

支援を必要としない

自己理解が進むと。。。

- 何となくみんなとちがう
- 困ってること、うまくできないことに気づく
- 得意・不得意を理解する
- 自分の特性を相手にわかりやすく説明する
- 相手に理解してもらい「わかってもらえた」という実感を与える
- うまくいったという体験を少しずつ積み重ねる
- 自分なりに工夫してみる
- できないことを相談しサポートを依頼する



大学は。。。

社会に出るままに残されたわずかな時間

- うまくできるか実際にやってみる経験ができる貴重な時間
- 「困った時どうすればいいか」「問題解決のスキルを培う時期

- ◆「なぜうまくいかないのか」「どうすればうまくいくのか」を
周囲が共に考えることで、本人の自己理解が深まる
- ◆自分で工夫したり、周囲に相談したり、配慮を受けたり
する力が身につく

大学として、何をどこまで？

- 支援は、学習・進路・生活面と多岐にわたり、短期間でなく、継続的な支援が必要
- 持続可能な支援のため、教職員に過度な負担にならない
～問題を一人で抱え込まない
～複雑なケースは早めに専門職につなぐ
- 本人・大学・(家族)間で、支援範囲のコンセンサスを
～支援なしでどの程度でき、どこまで支援が必要か話し合う
- 必要に応じて支援内容の修正や新たな課題を協議
- ◆「問題があつたら対応する」ではなく「問題がおきてないか
確認する」という予防的対応が重要

最後に

周囲の適切な理解と支援が彼らの可能性を広げる

- 一人一人異なり典型例はない
- 大学生生活で抱えてる問題は多岐にわたる

だからこそ

教職員間の連携・協力が重要

「お互いの“わからなさ”を認めあうコミュニケーションを」
「日頃から気軽に相談し情報交換できる人間関係を」

2019年9月26日

FD 研修会参加報告

地域医療薬学センター 香月正明

研修会：第5回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ
新しい薬学教育と質保証 ～日々の教育改善につなげるために～
日時：2019年9月21日（土）13：00～9月23日（月）15：30
場所：クロス・ウェーブ梅田（大阪府大阪市）
参加者：大学教員 71名、日本薬剤師会 9名、日本病院薬剤師会 9名

<プログラム>

1日目

ワールドカフェ

第一部 「社会の変化と薬学教育」

教育講演1「2040年に向けた高等教育のグランドデザインと内部質保証について」

文部科学省 福島哉史 薬学教育専門官

教育講演2「大学教育の内部質保証をどう実現するか-能力論・学習論・評価論の視点から-」

立命館大学 山田 勉 先生

第二部 「6年制課程の卒業時のアウトカムを考える」

セッション1 「2030年、社会が望む薬剤師の資質・能力とは？」

KJ法による作業

教育講演3「人口知能時代の医療と医療者教育」 兵庫医科大学・客員教授 高橋優三 先生

「学生はこんなことを言っていましたよー」 全国学生ワークショップ実行委員長 高橋寛 先生

2日目

セッション2「ディプロマポリシーを作ろう」

SGD

発表

教育講演4「プログラムレベルの評価のデザイン -ディプロマポリシーの到達度をどう評価するか-」

新潟大学医歯学総合研究科口腔保健学分野 小野和宏 先生

第三部 ディプロマポリシーの到達を評価する

セッション1「ディプロマポリシーの到達を評価する」

SGD

発表

教育講演 5「学生の能力を引き出すための学習方略（体験型）」

聖心女子大学現代教養学部教育学科 益川弘如 先生

3 日目

セッション 2「ディプロマポリシーに到達できる学習環境をデザインする」

SGD

セッション 3「アセスメント・ポリシーを作ろう」

SGD

発表

第四部 「アクションプランを考える」

個人作成

発表

教育講演 6「医療を取り巻く現状と今後の医療行政」

厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課 安川孝志 薬事企画官

総合討論

<報告>

第 5 回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップに参加した。6つの教育講演、SGD、発表などを行い、他大学の教員と活発な意見交換を行った。本研修では 10 年後である 2030 年に、大学教育はどうあるべきかというテーマをメインに研修を受講した。教育講演 3「人口知能時代の医療と医療者教育」 兵庫医科大学・客員教授 高橋優三先生の講演では人口知能（AI）による、医療界への影響について、最新の機器・技術の紹介を行って頂いた。本講演で AI 導入により、薬剤師は生き残るために、調剤、服薬指導以外の役割を見つけなければならないと指摘があり、今後の薬剤師業務の在り方を考えさせられる内容であった。また、各 SGD では専門分野、職種（教員、病院薬剤師、薬局薬剤師）が異なる方々とのディスカッションに大いに刺激を受け、大変興味深い内容であった。

教育講演 5「学生の能力を引き出すための学習方略（体験型）」 聖心女子大学現代教養学部教育学科 益川弘如先生の講演では最新の学習方略を体験し、自身の学習方略の見直しを行える機会となった。

FD 研修会参加報告

企画：令和元年度 障害学生支援理解・啓発セミナー 2

日時：令和元年 10 月 25 日（金）11:00～17:00

会場：新大阪丸ビル別館

参加者：岡崎裕之（報告者）

<プログラム>

文部科学省 行政説明

「障害のある学生の修学支援」

日本学生支援機構学生生活部 事業概要説明

「JASSO における障害学生修学支援事業について」

基調講演

「障害学生支援体制の構築に向けて」

村田淳（京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム准教授）

事例紹介

大学等における障害学生支援の取組について

梅本直（京都外国語大学学生部健康サポートセンター障がい学生支援室）

山下京子（広島女学院大学児童教育学科教授）

「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」の事業報告

船越高樹（京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム特定准教授）

情報交換会

<報告>

令和元年度障害学生支援理解・啓発セミナー2に参加した。まず文科省、JASSO より障害学生支援についての概要説明、事業概要の説明が行われた。午後からは基調講演として京都大学の村田准教授による京都大学における支援体制の構築についての講演が行われた。その後、各事例紹介として京都外国語大の梅本先生、及び広島女学院大の山下教授の取組について発表され、最後に東京大学、京都大学が取り組む「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」の事業報告が京都大学 伊藤准教授により行われた。

高等教育機関において障害のある学生の在籍者数は年々増加しており、「障害者差別解消法」の施行に伴い各機関による学生支援の重要性が提示された。基調講演、事例紹介を通じて、大学における学生の修学支援のために短期課題、長期課題を設定し、学生からの合理的配慮の申し出について検討を行う組織編成を行う必要性が感じられた。障害学生に対する支援が大学による特別なものではなく当たり前に行われるものとして、今後支援体制を構築し、受験生、入学生などへ情報提供を行っていくことが重要であると思われた。

学 支 障 第 25 号
令 和 元 年 5 月 31 日

各 国 公 私 立 大 学 長
各 公 私 立 短 期 大 学 長 殿
各 国 公 私 立 高 等 専 門 学 校 長

独立行政法人日本学生支援機構

理事長 吉岡知哉



(印影印刷)

令和元年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」の開催について（通知）

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より日本学生支援機構の事業にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

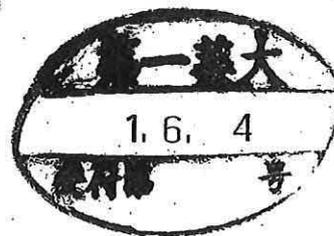
本機構では、文部科学省の要請を受け、平成 26 年度から平成 29 年度までの 4 年間に渡り、障害学生支援のための全国障害学生支援セミナー「体制整備支援セミナー」を開催してまいりました。

平成 30 年度より「障害学生支援理解・啓発セミナー」と名称を改め、障害者差別解消法施行後の大学等での合理的配慮の提供に関する対応等について、ご理解を深めていただくため、大学等の管理者及び教職員の皆様を対象に、障害者差別解消法の基本的な考え方についての講演や先進的な取組をされている学校の事例紹介をいたしました。

本年度においては、新たに情報交換会を設け、参加者同士の交流や話題提供者との意見交換を通して、障害学生支援の理解を深めていただく予定です。

障害学生支援の体制整備を進める上で、是非役立てていただきたく、多数のご参加をお待ちしております。

なお、貴学（校）において、本件通知の送付先とは別にご担当部署がございましたら、大変お手数ですが本件通知についてお知らせいただきますようお願いいたします。



【本件に関する問い合わせ先】

独立行政法人日本学生支援機構

学生生活部 障害学生支援課 障害学生支援計画係

〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1

TEL 03-5520-6173 FAX 03-5520-6051 E-mail tokubetsushien@jasso.go.jp

令和元年度障害学生支援理解・啓発セミナー

申込手引

1. 実施要項 P1
2. プログラム P4
3. 申込み方法 P5
4. 会場案内 P7
5. チラシ P9

<問い合わせ先>

独立行政法人日本学生支援機構

学生生活部 障害学生支援課 障害学生支援計画係

TEL: 03-5520-6173 FAX: 03-5520-6051

E-mail : tokubetsushien@jasso.go.jp

令和元年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」実施要項

1. 目的

日本学生支援機構は全国の大学等において、障害のある学生の修学支援体制を整えるために平成26年度から平成29年度の4年間にわたり「全国障害学生支援セミナー体制整備支援セミナー」を実施してきたところです。平成30年度からは「障害学生支援理解・啓発セミナー」と名称を変更し、これまで体制整備支援セミナーに参加実績のない大学等や、障害学生が在籍しない大学等の教職員及び管理者等を対象にしたセミナーを実施し、理解・啓発を図ります。今年度も引き続き、より多くの学校で障害学生支援体制が整えられるよう、具体的な事例を交えながら、障害学生支援の底上げを図ります。

2. 主催

独立行政法人日本学生支援機構

3. 協力

文部科学省

4. 開催日及び会場

セミナー名	会場（別紙案内図参照）	実施日	募集定員
障害学生支援 理解・啓発セミナー 1	東京国際交流館 プラザ平成 (〒136-8630 東京都江東区青海 2-2-1)	10月1日（火曜日）	250名
障害学生支援 理解・啓発セミナー 2	新大阪丸ビル別館 (〒553-0033 大阪市東淀川区東中島 1-18-22)	10月25日（金曜日）	200名

（※プログラム内容は同一となっております）

5. 開催時間

11時～17時（受付開始10時30分）

6. プログラム

詳細はプログラム（P4）を参照

7. 対象者

高等教育機関の管理者及び障害学生支援に携わる高等教育機関の教職員

（主に、障害学生が在籍していない大学等や、思うように取組が進まない大学等の教職員）

8. 参加費

無料

※参加に伴う旅費等は各所属機関にてご負担願います。

9. 情報交換会

参加者同士での情報交換や話題提供者との意見交換を予定しています。

10. 参加者数

参加決定は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。

なお、申し込み期限後、席に余裕がある場合は本機構ウェブサイトでお知らせします。

11. オンラインセミナー

10月1日に開催予定の「障害学生支援理解・啓発セミナー1」（東京）において、オンラインセミナーの試験導入を実施します。遠隔視聴をご希望の場合は、オンラインセミナーをお申込みください。なお、オンライン配信の内容は、別紙プログラムの事例紹介までとなります。情報交換会については配信いたしません。

12. 申し込み方法

「参加申し込み方法について（P5）」に従って、日本学生支援機構 障害学生支援課のウェブサイトから参加したいセミナーの申込み画面にログインし、必要事項を入力、送信してお申し込みください。なお、申し込み手続き完了直後に、手続きの完了を知らせる自動送信メールが届きますので、必ず確認してください。申し込み完了とともに参加確定となります。メールが届かない場合には手続きが完了していないと考えられますので、本件問合せ先に連絡をし、必ず手続きの完了を確認してください。

13. 申し込み期限

「障害学生支援理解・啓発セミナー1」：令和元年 9月24日（火曜日）正午

「障害学生支援理解・啓発セミナー2」：令和元年 10月15日（火曜日）正午

※ 申し込み期限前でも定員に達した場合は申し込みを締め切らせていただきます。

【注意事項】

① 申し込み手続きの完了をもって参加決定とします。申し込み手続きの完了時に届く自動送信メールにも参加決定について明記してあります。参加者へのご案内が記載されておりますので必ずご確認ください。

② 情報保障（パソコン文字通訳、手話通訳、資料のテキストデータの提供等）座席の指定、誘導を希望される方は、参加申込み時に「障害等により配慮を希望する」を選択してください。なお、ご希望に添えない場合もございますので、予めご了承ください。

※ 情報保障を希望される方は次の期日までにご連絡をお願いいたします。

「障害学生支援理解・啓発セミナー1」：令和元年 9月2日（月曜日）

「障害学生支援理解・啓発セミナー2」：令和元年 9月24日（火曜日）

③ 参加の申込みにあたってご記入いただいた個人情報は次の目的に利用します。その他の目的には利用いたしません。

- 本セミナーの運営に際し必要な名簿等の作成
- 本セミナーの講師、業務委託先等、運営に必要な範囲での情報提供
- 本セミナーの実施状況を把握する資料（過年度参加状況等）の作成
- 事後アンケートなどの依頼

④ 本セミナー当日は、機構スタッフによる各会場の写真撮影及び録音を行いません。撮影した写真は機構の事業の広報活動のため、また、録音内容については実施概要等の作成のためとして使用いたします。その他の目的には利用いたしません。

14. 本件問合せ先

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部 障害学生支援課 障害学生支援計画係

TEL : 03-5520-6173 FAX : 03-5520-6051

E-mail : tokubetsushien「@」jasso.go.jp

※ E-mail を送信するときは「@」のカギカッコをはずしたメールアドレスに送信してください。

令和元年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」プログラム

開始時刻	終了時刻	時間	プログラム内容
10:30	11:00	30分	受付
11:00	11:20	20分	文部科学省 行政説明 「障害のある学生の修学支援」(仮)
11:20	11:40	20分	機構学生生活部 事業概要説明 「障害学生修学支援事業について」(仮)
11:40	13:00	80分	昼食休憩
13:00	14:00	60分	基調講演 「障害学生支援理解・啓発セミナー 1」 近藤 武夫 (東京大学 先端科学技術研究センター 准教授)
			「障害学生支援理解・啓発セミナー 2」 村田 淳 (京都大学 障害学生支援ルーム 准教授)
14:00	14:15	15分	休憩
14:15	15:15	60分	事例紹介 大学等における障害学生支援の取組について2校の事例を紹介します。 (セミナー毎に事例紹介校が異なります。)
15:15	15:45	30分	「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」の事業報告 東京大学、京都大学が採択校として事業を展開している本事業のこれまでの成果等を紹介します。
15:45	16:00	15分	休憩、移動
16:00	17:00	60分	情報交換会 参加者同士での交流と情報交換を図るための自由な交流の場となっております。登壇者も出席いたしますので是非ご参加ください。 ※会費の徴収はありません。また適宜自由解散となります。

令和元年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」
参加申込み方法について

1. ログイン情報を確認してください。

ログインIDとパスワードは「ログインIDとパスワードのご案内」(送付状)に記載されています。

2. 申込みフォームへアクセスし、参加申込みのページに進んでください。

①日本学生支援機構ホームページ (<http://www.jasso.go.jp>) から上部メニューバー「学生生活支援」をクリック

→メニューの「障害学生支援」の「障害学生支援イベント情報」をクリック

→「障害学生支援理解・啓発セミナー」、「令和元年度障害学生支援理解・啓発セミナー」をクリック

→案内ページ内の参加申込みフォーム(日程ごとにログイン画面が異なります)をクリック

②ログインIDとパスワードを入力して「ログイン」をクリック ⇒ 申込フォーム(以下参照)が開きます。

※ログインIDとパスワードにつきましては、「ログインIDとパスワードのご案内」(送付状)をご確認ください。なお、同じログインIDで複数名の参加申込みができます。

3. 申込み期限

「障害学生支援理解・啓発セミナー1」：令和元年9月24日(火曜日)正午

※手話通訳、PCノートテイクによる情報保障が必要な場合は9月2日までに申込みしてください。

「障害学生支援理解・啓発セミナー2」：令和元年10月15日(火曜日)正午

※手話通訳、PCノートテイクによる情報保障が必要な場合は9月24日までに申込みしてください。

※申込み期限前でも定員に達した場合は申込みを締め切ります。予めご了承ください。

《イメージ》 ※実際の表示画面は環境により異なります。

令和元年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」参加申込みフォーム	
(各日程の開催情報が表示されます。必ず確認してください)	
参加者所属機関情報	
ログインID	(自動入力)
高等教育機関名称	(自動入力)
郵便番号	135-8630
都道府県	(選択)
住所	東京都江東区青海 2-2-1
参加者個人情報	
参加者氏名	機構 太郎
参加者氏名(カナ)	キコウ タロウ
所属部署	学生支援課
職種	(選択)
役職名	支援コーディネーター(任意)

参加者連絡先情報

メールアドレス (確認)	abc@jasso.go.jp abc@jasso.go.jp
電話番号	00-0123-4567
ファックス番号	00-1234-5678

支援・配慮の要望

- 障害に対する支援・配慮を希望する。
- 障害に対する支援・配慮は必要ない。

情報交換会への出席希望

- 出席を希望する。
 - 参加しない。
- ※情報交換会は途中退出が可能です。

(参加者アンケート)

※簡単なアンケートが表示されます。最もあてはまる選択肢を選んでください。
また複数選択が可能な質問もあります。

内容確認

令和元年度障害学生支援理解・啓発セミナー 会場案内図

【障害学生支援理解・啓発セミナー1】

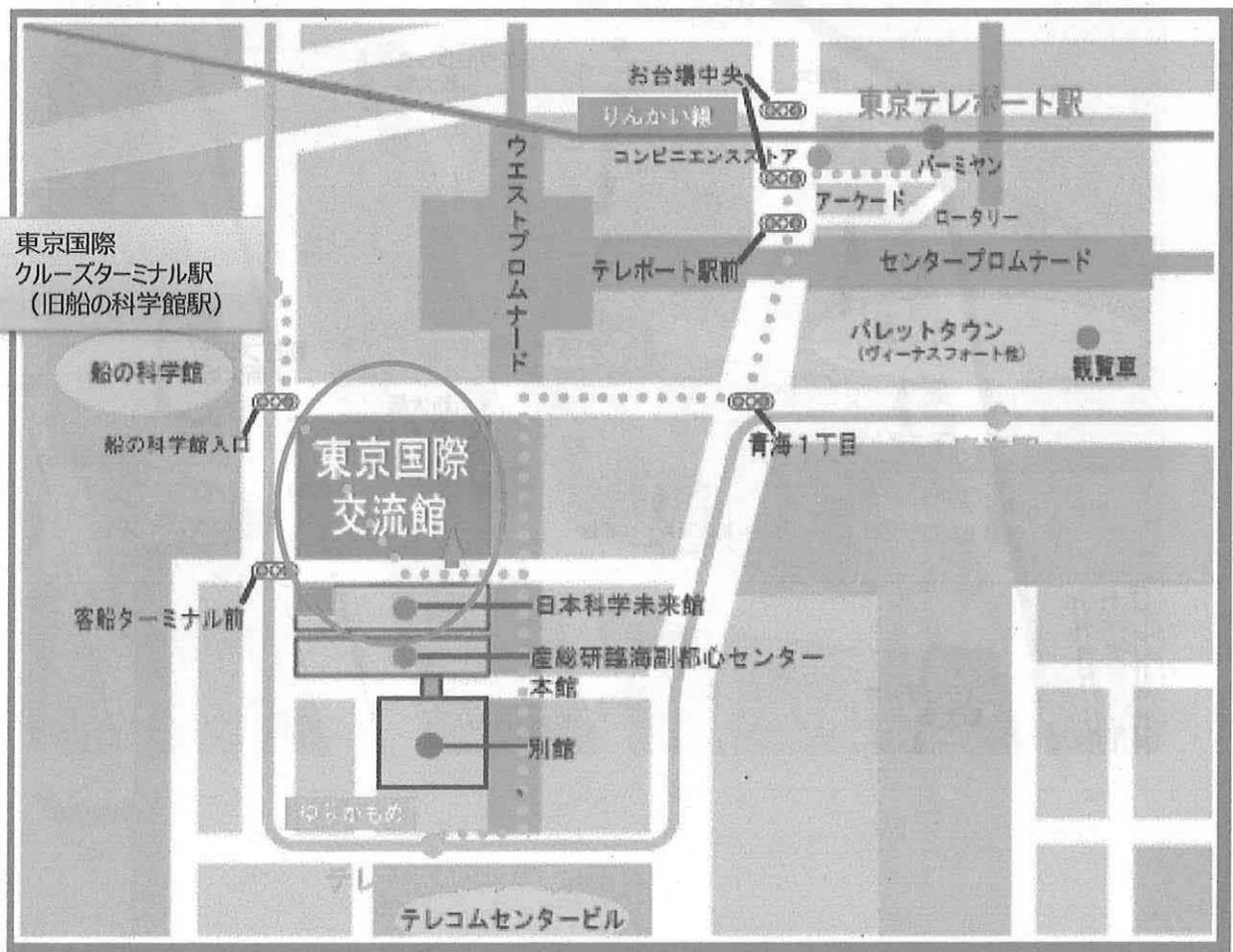
日時:10月1日(火曜日)11時から17時 (受付10時30分)

会場:国際交流館プラザ平成 3階

〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1

新交通ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル駅」

A1出口徒歩約5分



【障害学生支援理解・啓発セミナー2】

日時:10月25日(金曜日)11時から17時 (受付10時30分)

会場:新大阪丸ビル別館 10階

〒533-0033

大阪市東淀川区東中島1-18-5

JR「新大阪駅」東口より徒歩約2分



令和元年度

障害学生支援理解・啓発セミナー

平成28年4月に障害者差別解消法が施行されたことにより、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供が、法的に義務ないし努力義務とされました。こうした背景を踏まえ、各大学等で修学支援体制を整えていただくために、日本学生支援機構では法施行以前の平成26年度から平成29年度までの4年間に渡り「体制整備支援セミナー」を実施してまいりました。

平成30年度からは障害学生が在籍していない学校や、思うように取組が進まない大学等を対象として「障害学生支援理解・啓発セミナー」と名称を変更し、学内での支援体制の構築について、ご理解をいただくためのセミナーを開催しております。

また、今年度は文部科学省の事業でもある「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」のこれまでの活動の成果報告も盛り込まれておりますので、多くの高等教育機関関係者の皆様の多数のご参加をお待ちしております。詳細については、JASSOウェブサイトをご覧ください。

<障害学生支援 理解・啓発セミナー 1>

令和元年
10月1日(火曜日)

東京国際交流館プラザ平成
3階 国際会議場
(ゆりかもめ 東京国際クルー
ズターミナル駅より徒歩5分)

定員250名

<障害学生支援 理解・啓発セミナー 2>

令和元年
10月25日(金曜日)

新大阪丸ビル別館 10階
(JR新大阪駅より徒歩3分)

定員200名

ープログラムー
(11時～17時)

- 日本学生支援機構事業説明
- 文部科学省行政説明
- 基調講演 : 学内での支援体制の構築等
- 事例紹介 : 先進的な取組事例
- プラットフォーム形成事業成果報告
- 情報交換会 : 参加者同士による情報交換

受付開始
10時30分～

学内での体制作りに焦点を当てた講演を予定しています。

※当該セミナーは、基本的な考え方についての理解・啓発を目的としています。

※東京会場において、試験的にオンラインセミナー（遠隔視聴）の実施を行ないます。

なお、オンラインセミナーで視聴される場合は、情報交換会の配信はいたしませんので、予めご了承ください。

※各会場のプログラム内容は同じですが、登壇者は異なります。

詳細はこちらからご覧ください。

▶ https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/event/rikai/r1/index.html

【問合せ先】

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部障害学生支援課 障害学生支援計画係
電話:03-5520-6173 FAX:03-5520-6051 E-Mail:tokubetsushien@jasso.go.jp

2019年12月10日

FD 研修関連出張報告

分析化学分野 藤井 清永

企画：名城大学薬学部における国家試験対策等に関する視察

日程：2019年12月7日（土）

場所：名城大学薬学部（名古屋）

名城大学薬学部における国家試験に向けた取り組みは、就職活動、卒業研究を終えた6年生の夏ごろより本格的に始まる。それまでは自己学習が中心で、6月に4週にわたる成績下位層を対象とした学術授業があるほか、8月に夏季講習会が催され、それ以降は本学と同様、薬学ゼミナールなどの予備校や大学の先生方による特別講義が行われる。また、定期的な模擬試験により学習の進捗を管理しながら、卒業試験、直前講習を経て、国家試験に臨むとのことであった。

そこで、国家試験の合格状況ならびに卒業、進級状況について、閲覧のみ許された資料をもとに整理した。別紙に本学の状況（上段）と名城大学薬学部の状況（下段）をまとめた。

まず学年別在籍状況に関して、本学に比べ、ストレート在席者数の割合がいずれの学年も高く、4年生（現5年生）に至っては、22%の差があった。それに伴って、過年度在籍者数の割合は低い値で推移していた。また、学年別の進級状況を比較すると、すべての学年で約80%以上を保持していた。卒業状況に関しては、本学のストレート卒業率が39%に対して、65%と高い値であった。国家試験の合格状況は近年、私立大で第1位を連続して獲得しているが、6年生の在席学生者数と合格者数による、いわゆる真の合格率を比較した。その結果、本学は近年、上昇傾向にあるものの、昨年度の37.5%に対して、名城大学薬学部は直近の5年間、80%以上を維持しており、昨年度は90%であった。すなわち、6年生に進級すれば90%が合格するというを示している。

先方にお話を聞く中で、本学と異なる点として、学生の学習管理を、配属研究室の先生に一任するのではなく、国家試験対策委員会の先生も加わっているとのことであった。また、国家試験対策委員会と教務委員会、教務事務の三者が連携した、学生のフォローアップ体制を確立しており、大学全体で学生一人ひとりを支援している印象であった。特に成績が振るわない学生に注力しており、底上げを図っていると考えられる。その成果は模試の結果に表れており、名城大学薬学部の得点分布は本学、他大学と比べても下層へのばらつきが極めて少なく、集団としてまとまっている。

私見ではあるが、本学においても成績が振るわない、得点分布で示された約半分のピンクの分布に属する学生に対して、底上げを図る学力向上のための対策が有効と考えます。具体的には、クラスを成績で2分し、上位クラスは黄色い得点分布の成績の維持に努める授業を、そして下位クラスは黄色の得点分布を目指した学力強化型の授業を、全学年を通じて展開することが、一つの対策として考えられます。

今回の視察は、本学の現状と対策を考えるうえで、たいへん有意義なものであった。

「第 24 回 FD フォーラム 大学におけるダイバーシティ」 報告

日時：平成 30 年 3 月 2、3 日

会場：立命館大学 衣笠キャンパス

参加者：田島健治

主催：大学コンソーシアム京都

(報告)

1. シンポジウム①

メインテーマ：「大学に集う人々の多様性に以下に向き合うか」

内容：今後、大学が国際化していく中で、国際基準の人権の観念やダイバーシティに対する考え方を日本の大学も共有していく必要があるとの趣旨のもと、京都精華大学学長 ウビス・サコ先生をはじめとした 4 人のシンポジストが自身の体験や考えについてそれぞれ次のタイトルで講演が行われた。「大学における多様性の課題と意識改革 ―留学生から大学教員までの経験を通して―」、「LGBTs が思春期・青年期に直面する生きづらさ」、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか～合理的配慮は「転ばぬ先の杖」か?～」、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか」

最後に、会場をまじえて質疑討論が行われた。

2. 分科会①

教学 IR：ケーススタディーから学ぶデータの活用法

大阪大学では入学時および、卒業・修了時に大学独自のアンケートを実施しているほか、海外研究大学とのベンチマーキングをおこなう目的で SERU という調査を行っていることが特徴である。また、GPS Academic, PROG といった外部調査を用いて、学修成果の評価が可能なのか、現在分析中であるという説明もなされた。

次に大阪府立大学では、GPA、IR コンソーシアムの共通調査、大学独自の卒業時アンケートといったデータを分析し、教育改善活動につなげている。そのなかで、大阪府大における「初年次ゼミナール」導入や英語科目の改革といった実例を挙げ、可視化したデータをいかに教育改善につなげていくかが重要であると講演された。

京都光華女子大学短期大学部における総合的評価提示システムについての紹介があった。京都光華女子大学短期大学部では、各科目の到達目標をディプロマ・ポリシーと紐付けする試みが行われ、同ポリシーの達成度を外部テストである PROG を用いて検証するという取り組みが行われている。

最後に、龍谷大学における教学 IR の取り組みについての説明があり、教学 IR を実施するうえでは数々の問題点があることを指摘された。また、大学 IR コンソーシアムの学生行動調査を実施して集めたデータを、機械学習手法を用いて分析した結果、ボトルネックになっている科目を特定するなど、学生調査のデータを実際に活用するための一例が示された。

以上

編集委員

第一薬科大学 FD委員会

委員長 戸田 晶久

委員 村山 恵子 有竹 浩介 小松 生明
藤井 清永 安川 圭司 岡崎 裕之
濱村 賢吾 松延 千春 宮本 明憲
豊原 敬三

発行人

福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学内 戸田 晶久

印刷所

福岡市南区清水3-20-10 (株)甘棠社

(非売品)

令和2年3月31日印刷

令和2年3月31日印行

発行所 福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学

